

あおもり 子どもの居場所づくり 活動事例集



令和4年3月

青森県

はじめに

青森県健康福祉部こどもみらい課

課長 最上 和幸



「現代の子供は、時間・空間・仲間の『三間（サンマ）』がない」。これは、昭和61年版の「厚生白書」に書かれていた言葉です。高齢化社会や都市化が進行する一方、受験戦争の激化や空き地や遊び場の減少により、「子供の生活時間をみると、現代では塾等での勉強時間やテレビ視聴に要する時間が増加している反面、遊びやスポーツに要する時間は減少している」と指摘しています。

あれから35年余、少子高齢化はますます進行し、人口減少社会に突入しました。いじめや不登校、児童虐待、子どもの貧困、ヤングケアラーなど、子どもを取り巻く環境は、ますます厳しさを増し、人と人とのつながりの希薄化が課題となっています。

このような中、「地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく『地域共生社会』の実現」を目指す動きがあります。

「子どもの居場所」についての定義はありませんが、一般的には、「社会とのつながりの中で、子ども自身が、自分が受け入れられ、自分であることが尊重されると感じることのできる場所」と言われています。学校でも、家庭でもない「第三の居場所」の一つとして、地域の方々の気遣いを受けながら、勉強したり、食事をしたり、遊んだり、悩みを相談できたりすることで、「自分が大切にされている」という実感を持てる場所であると考えています。そして、様々な環境の中で「困り感のある子ども」への支援の入口になることも期待されています。

県では、一つでも多く、この「子どもの居場所」を子どもの身近な場所につくっていきたいと思っています。この取組を地域の方々と力を合わせて行うことで、地域が元気になり、子どもだけでなく地域の人にとっても、そこが「居場所」となっていくと考えるからです。

子どもの笑顔には、人を引きつける力があります。新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、多くの善意が子どもや子どものいる家庭に届けられています。それは、子どもの喜ぶ顔が、支援を行う人々を元気にするからでしょう。

現在、県内では、いろいろな立場の方々が、その地域や人材の強みを活かして、子どもの居場所づくりに取り組んでいます。この事例集は、その取組の一端を示すものです。

この事例集が、「子どもを真ん中」にした地域づくりの一助となることを願っています。

目 次

[メッセージ]

1 子どもの居場所づくりアドバイザーから <今こそ、子どもの居場所が必要なとき> 青森県立保健大学 看護学科・大学院健康科学研究科 教授 反町吉秀氏	5
<居場所づくりの意義> 弘前大学 人文社会科学部 教授 李永俊氏	7
<「子ども食堂」って何だろう？> 八戸学院大学 健康医療学部人間健康学科 准教授 佐藤千恵子氏	10

[活動紹介]

2 県内の子どもの居場所活動紹介	13
〔資料編〕	
3 「こども食堂」を中心に…子どもの居場所開設マニュアル（18のQ&A）	90
4 子どもの居場所安心マニュアル	94
5 活動支援のための無料貸出品	97
6 「みんなの居場所」づくりの支援	99
7 県内の子どもの居場所に関わる関係団体等一覧	103

1 子どもの居場所づくりアドバイザーから

今こそ、子どもの居場所が必要なとき

青森県立保健大学看護学科・大学院健康科学研究科教授
社会的包摶・セーフティプロモーション研究室
教授 反町 吉秀



コロナ禍においては、休業や失業による経済的困窮、ソーシャルディスタンスの確保と感染への恐怖を背景とする自粛生活、休校、リモート授業により、社会的に孤立する人や世帯が増えた。2020年度のDV相談件数が、約20万件（前年比約1.6倍）となり、児童相談所の児童虐待対応件数が20万件を超えて過去最多となった。また、2020年における児童生徒の自殺者数は499人、前年より100人（25%）増加し、過去最多となった。これらは、深刻化した女性や子どもの生きづらさの指標とも考えることができる。

小児科学会は、COVID-19に感染した子どもの圧倒的多数が、無症状もしくは軽症にとどまるに触れた上で、子どもたちへの広範なCOVID-19関連健康被害が生じていることを指摘している。（実際、2021年12月26日時点では、COVID-19による未成年の死者は3人に留まる。）学校閉鎖により子どもたちの教育の機会が奪われ、抑うつ傾向や情緒障害に陥らせたり、学校給食や子ども食堂で食いつないでいた貧困家庭の子どもたちが食生活に困窮したり、福祉の援助が十分に行き届かない中で家庭内暴力や子どもの虐待のリスクが高くなったりなど、子どもたちは、COVID-19感染による健康上のリスクではなく、いわば大人の都合で我慢を強いられ、大変な目に合っているのだ。

ところで、コロナ禍のフェーズは、感染シャットアウト期（2020年3月～5月）、移行期（2020年6月から現在に至る）、アフターコロナ期に分けることができる。移行期は、感染予防、経済危機、生活危機が三すくみ状態であり、人と人がつながることがますます困難となり、無縁社会の深刻化が進むフェーズである。アフターコロナ期は、予防接種の普及による重症化と感染拡大の防止により、医療がひっ迫状態から脱却し、感染が完全には終息していくなくともインフルエンザ並みにコントロールできる状態である。オミクロン株の出現により、現在は、なお、移行期にあると考えられる。

多くの子ども食堂は、感染シャットアウト期には、活動を停止した。しかし、移行期に入り、一堂に会しての食事は再開できなくても、お弁当の配布、食材の提供（フードパントリー）や宅配等、食を介する様々な活動に、様々な人々の協力を得ながら工夫して取り組んできた。2020年に開始された「子ども宅食“おそらくわけ便”」（青森県社協がまとめ役）は、食品等の配達を取り口として、つながりにくい家庭とつながる活動として展開された。そして、三沢市、五所川原市、三沢市、青森市等で多くの家庭とつながってきた。中には、具体的な支援につながったケースも少なくなかった。また、2021年に入ってから、子ども食堂を再開したり、再開に向けた準備に取り組むところも増えてきた。実際、アフターコロナ期には未だなっていない移行期の現在でも、NPO法人「むすびえ」の感染予防マ

ニュアル（小児科医監修）を活用することにより、感染対策に万全を尽くした上で、人々が一堂に会する形でのこども食堂の開催は十分に可能である。不安があれば、筆者のような公衆衛生の実務家に気軽に相談してほしい。

コロナ禍においては、逆説的だが、子どもの居場所づくり活動の意味があぶりだされたと言える。こども食堂は食べるだけの場所ではない。学習支援も勉強するだけの場所ではない。こども食堂は、子どもと様々な人々がつながり続けようとする活動であり、家庭や学校に居場所がなくても、サードプレイスとなり、見放されることのない居場所となることが明らかとなったのだ。

コロナ禍での子どもの居場所づくり活動は、心理的負担を感じたり、関係者の協力が得にくかったり、困難を伴うかもしれない。しかし、子どもの居場所づくり活動は、子どもの健やかな成長にとって大切で尊い活動である。また、深刻化する生きづらさの中で生きるための希望や心の栄養を届ける活動でもある。子どもの命が虐待や自殺により奪われることのない社会の基盤を作り出す。そして、子どもを持つことが幸せな未来につながると思える社会づくりもあるのだ。コロナ禍で生きづらさの深刻さが増した今こそ、子どもの居場所づくり活動が必要な時なのである。

<プロフィール>

1960年新潟県長岡市生まれ。医学生時代、地域で生活する精神障がい者を支援するボランティア活動に参加。京都府立医科大学1988年卒。法医学者として、大阪府監察医事務所、東京都監察医務院等にて死体検案及び行政解剖に従事し、過労死、事故死、自殺（子どもを含む）や孤立死した遺体に接する。阪神大震災時には被災者の検案を担当。大学法医学教室等で虐待やDVの被害者等の司法解剖にも従事。2000年から翌年にかけ、スウェーデンカラリンスカ医科大学公衆衛生学部社会医学部門にて、セーフティプロモーション（公衆衛生アプローチによる事故、暴力、自殺の予防）及びWHO推奨セーフコミュニティについて研究。2004年より青森保健所、青森県庁健康福祉政策課勤務（兼務）。2007年4月より青森県上十三保健所長。十和田市におけるWHO推奨セーフコミュニティ活動の支援に携わる。2011年より大妻女子大学家政学部教授。2016年4月より自殺総合対策推進センター地域連携推進室長。2018年4月より現職。2019年11月より、青森県社会福祉協議会子どもの居場所づくりアドバイザー（青森地域担当）

日本セーフティプロモーション学会理事、日本健康福祉政策学会理事、社会的包摂サポートセンター「よりそいホットライン」相談内容分析検討委員、青森県社会福祉士会外部理事、青森ダルクを支える市民の会会員。

●趣味、特技、好きなものなど

趣味は、囲碁、音楽（コーラス、楽器演奏）、旅行。国内外を問わず知らない街を散策し、地元の人と話すのが好きです。

居場所づくりの意義

弘前大学人文社会科学部

教授 李永俊

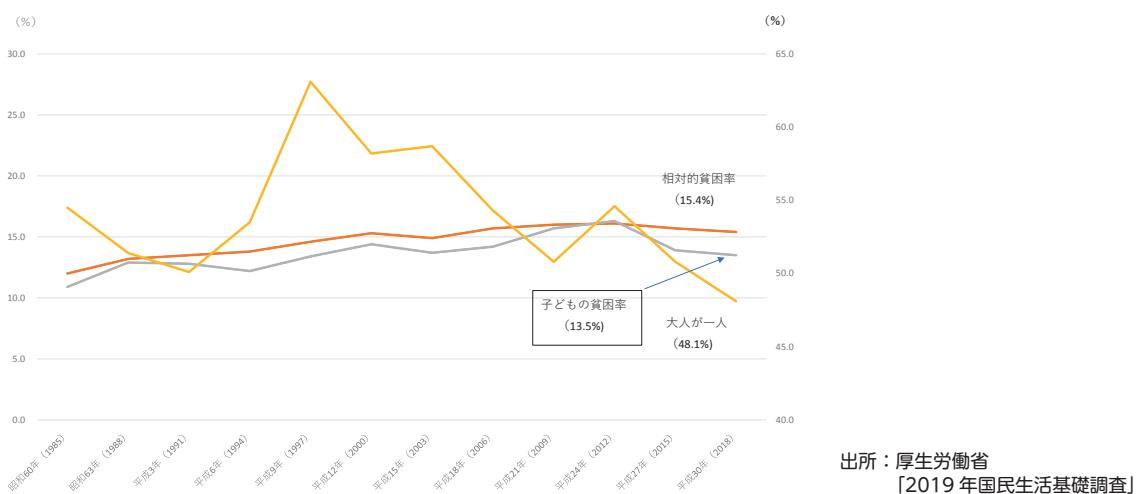


「居場所」には、広辞苑によると「いるところ、いどころ」と定義されるが、物理的な場所を指すだけではなく、安心していられるところ、ありのままの自分で居られるところなど、心理的ないどころとなる空間を指す意味がある。つまり「子どもの居場所」は子どもたちが安心していられ、自分らしくいられる場所を指すのである。なぜ今そのような「子どもの居場所」づくりが各地で求められているのかを、家庭や学校を取り巻く環境の変化から考えてみたい。

まず、注目したいのは子どもの貧困である。図1は、厚生労働省の「2019年国民生活基礎調査」を用いて図示した貧困率の推移である。ここでいう「相対的貧困率」とは、全世帯員のうち、等価可処分所得の中央値の半分（貧困線）に満たない世帯員の割合を指す。具体的には、2018年の年収が127万円に満たない世帯員の割合である。また、17歳以下の子どもも全体のうち貧困線に満たない子どもの割合を指す「子どもの貧困率」は13.5%となっており、約7人に1人が貧困状態である。また、一人親世帯をみると48.3%となり、約半数が経済的困窮状態にあることがわかる。

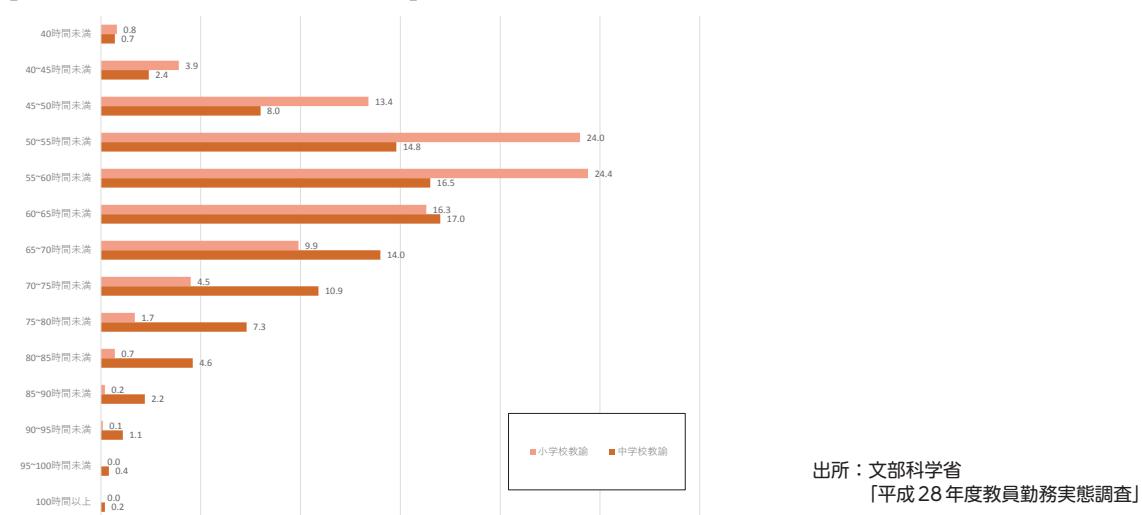
相対的貧困は、毎日の衣食住に困る絶対的な貧困とは異なるが、経済的な理由で教育や体験の機会が乏しく、地域や社会から孤立してしまう恐れがある。また、筆者らの調査から、そのような世帯の子どもたちには、地域社会になじめず、できれば地域を離れたいと望む傾向が強いことがわかった。子どもは大人とは異なり、経済的な困難を一人で克服することは難しい。このような子どもたちに教育や体験の機会を提供することが「子どもの居場所」の重要な役割の一つである。

【図1 貧困率の推移】



次に家庭環境の変化について注目したい。上記の調査結果によれば、児童のいる世帯の内、父母ともに仕事があるいわゆる共働き世帯は、全国平均で 60.3%に達しており、父のみの仕事と専業主婦という長年標準家庭と称されていた家庭はすでに少数派になっている。都道府県の状況を見ると、青森県の共働き世帯の割合は、全国平均を少し上回る 63.0%となっている。共働き世帯の増加は、子どもたちの孤立を招きかねない。総務省の「社会生活基本調査」によれば、子育て期の妻の週全体の育児時間が、夫が有業で妻が無業の場合は 186 分であるのに対し、共働き世帯だと 68 分と約 1/3 になっている。成長期の子どもたちは、会話や他人のしぐさを観察して多くのものを吸収する。そのため、家族や安心できる大人と共に過ごす時間が大事である。

【図 2 小中学校教諭の勤務実態】



次に、子どもたちのもう一つの居場所である学校を取り巻く環境を見てみよう。図 2 は文部科学省『平成 28 年度教員勤務実態調査』から小・中学校教諭の勤務時間分布を図示したものである。国は過労死防止のための対策に関する大綱の数値目標として、週労働時間 40 時間以上の雇用者のうち、週労働時間 60 時間以上の雇用者の割合を 2025 年までに 5% 以下に收めようとしている。しかし、図 2 から小学校教諭で 33.4%、中学校教諭で 57.7% が長時間労働を強いられていることがわかる。

以上のことから、子どもたちにとって最も安心できる家庭や学校では、現状以上に子どもたちに向き合う時間が残されていないことがわかる。一方、地域社会に目を向けると、子育てを終え、少し時間的余裕ができた中高年者や、現役を引退し元気で時間の余裕がある高齢者がいる。そして地域社会との繋がりをもてない大学生や、学校外では孤立しがちな中・高生も、有意義に過ごせない時間是有している。このように、様々な世代に活用可能な時間が存在するのである。

そして、空き家や利用頻度の少ない公民館や集会所など場所という資源も存在する。また、規格外野菜、趣味の家庭菜園で作った野菜や賞味期限に近い食品など多くの余剰食品が存在する。料理好きな人のスキルも重要な地域資源である。そして、地域企業の寄付は

将来の人才確保につながる大事な投資となりうる。このような地域住民一人一人が持っている時間と金、場所、食品をつなぐ「子どもの居場所」を設けることで、子どもや子育て世帯に安心を届けることが出来るのである。

筆者が専門としている労働経済学では、「ヒト」を消費の主体、生産の主体、そして再生産の主体と考えている。つまり、人口減少が進み「ヒト」が少なくなると、その地域の消費が低迷する。消費の低迷は生産の縮小、雇用の場の減少につながる。働く場がなくなれば、「ヒト」は雇用の場を求め、地域外に流出し、人口減少は加速的に進行するのである。すでに人口減少問題は地域社会の存続に関わる最重要課題である。地域の子どもたちが様々な世代の地域住民との触れ合いの中で、自分が持っている能力を発見し、自分の夢を育む「子どもの居場所」が、持続可能な地域づくりの出発点であるに違いない。

<プロフィール>

現職：弘前大学人文社会科学部教授・同地域創生本部ボランティアセンター長・同地域未来創生センター長・一般社団法人みらいねっと弘前副代表

1968年韓国釜山市生まれ。1991年に来日し、名古屋大学経済学部卒。同大学大学院経済学研究会博士課程修了、博士（経済学）。2003年弘前大学人文学部（現人文社会科学部）に着任。専門は労働経済学。

青森県を中心とした地方の雇用問題、若年者の就業状況、地域間移動などに关心が高い。データを用いた実証分析を主に実施している。地方ならではの生き方モデル「あおもりモデル」（陸奥新報「日曜随想」）を打ち上げ、青森らしい暮らし方を模索している。東日本大震災の発生後は、教員有志と一緒に弘前大学ボランティアセンターを設立し、弘前市と協働で岩手県野田村への支援・交流活動を展開している。復興政策や災害に強い地域づくり、災害と人的なネットワークなどに関する研究活動を行っている。また、2018年から学習支援、子ども食堂、フードバンク等の活動を開始し、現在は一般社団法人みらいねっと弘前と連携して子ども居場所づくり、持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

著書に、『「東京」に出る若者たち－仕事・社会関係・地域間格差』（共著、ミネルヴァ書房、2012年）、『東日本大震災からの復興（3）たちあげるのだー北リアス・岩手県九戸郡野田村のQOLを重視した災害復興研究』（監修、弘前大学出版会、2015年）、『人口80万人時代の青森を生きる－経済学者からのメッセージ』（共著、弘前大学出版会、2019年）など。

「子ども食堂」って何だろう？

八戸学院大学健康医療学部人間健康学科

准教授 佐藤 千恵子



子ども専用の食堂もしくは子どもが作って子どもが運営する食堂だろうか。恐らく初めて「子ども食堂」という言葉を聞いたときに、多くの人がそんな疑問を持ったのではないだろうか。2012年にいち早く「子ども食堂だんだん」を立ち上げた東京都大田区の近藤博子さんは、近くに住む子どもが、母親が病気がちで給食以外の食事がとれていない状況を知り、地域で何とかしてやりたいという想いで「子ども食堂」を開設した。どんな子でも子どもが一人で食べに来ることができる場所としてスタートさせたのだ。すると、あちこちに同じような境遇の子どもたちがいることをマスコミが取り上げた。その子たちは「貧困の子」と呼ばれている。が、外見からは判断しにくく他の子たちと変わりがない。そのため近藤さんは貧困に限定せず、地域で繋がり合える事を目的に、大人でも子どもでも誰でも利用できるよう間口を広げて運営している。今やその数は6,000カ所余に増えた。青森県内でも2016年4月に弘前市内で対象を限定した子ども食堂が2店舗オープンしたが、ほとんど利用者がいなかった。この状況から同年11月に対象者を限定しない、誰でも利用できる子ども食堂を、八戸学院短期大学ライフデザイン学科の学生たちとゼミナール活動の一環として立ち上げた。そして多くの方々からご支援を戴きながら八戸市内に8カ所の子ども食堂が開設されている。さらに、それが県内各地へと徐々に広がり、現在は県内に50カ所余の子ども食堂が開設されている。例えば夏祭りを企画する子ども食堂や冬は親子で餅つきをする所もあれば、親子で魚釣りに行き、捕ってきた魚を調理して食べる所もある。また宿題をみんなで一緒にした後に子どもだけでピザやカレーを作り、高齢者と子どもたちが地域で「正しい手洗いの勉強会」をするなど多種多様な取組みをしている。けれども、まだまだ「子ども食堂」の数も周知も不足しているのが実状である。また昨年はコロナ禍の影響か、青森県でも子どもの虐待件数が増加し、他県ではいじめを苦に自殺する子どももいた。そういう報道を目にする度に、子どもたちが気軽に集まる場所があつて愚痴や悩みを話すことができたらよかったですのにと思ってしまう。身内だと話しにくい事も他人には素直に話せることもある。子ども食堂はそういう役割も併せ持った場所であつてほしいと考えている。そんな中で十和田子ども食堂実行委員会が新たな取組みを始めた。「子ども食堂バス」を走らせて、子ども食堂の周知拡大をしている。クラウドファンディングで活動資金を募り中古のバスを購入し、車内で料理もできるように改造して、代表の水尻氏が運転手となり十和田市内はもちろん、県内各地を走り回っている。本来、子ども食堂は決まった場所で決まった時刻に継続して開催することを前提としているため、移動する「子ども食堂バス」には違和感があり、正直驚いた。でも子ども食堂に來たくても來れない人もいる。そういう人の所へバスならこちらから出かけて行き、他の人と同様に

その地域で参加できるのだ。興味関心がある人にとって、こんな嬉しいことはないと思う。実際に子ども食堂を立ち上げるには規約もマニュアルもない。子ども食堂を始めたいという想いがあれば誰でも始められるし、大半の人はその地域に根差した取組みをしている。「子ども食堂バス」も元々の地域を基盤としながら、オファーがあればその地域へ出かけて行き、新しい仲間を増やしていくかもしれない。今はそんなふうに期待している。

そして貧困にとらわれず、それぞれの地域で地域の人たちが交流できるような居場所づくりができるように、今後も活動を進めていきたい。

※青森県の虐待：参考資料 <https://www.toonippo.co.jp/articles/gallery/515917?ph=1>

<プロフィール>

大学卒業後、東京に憧れハウス食品株式会社に就職。その後、地元へ戻り結婚し非常勤講師として小学校へ勤務するが、妊娠を機に退職。3人の子どもたちを育てながら専業主婦生活を楽しんでいたら、友人からの紹介で栄養士として復職することになる。

- ・1991年3月 雪印乳業株式会社入社（栄養士）（平成14年9月まで）
　栄養士として病産院や市町村役場を訪問し、妊産婦及び乳幼児の栄養指導や育児相談を担当
- ・2002年4月 八戸大学科目履修生として社会人入学（2006年3月まで）し、仕事と勉学に励む
- ・2002年10月 ビーンスターク・スノー（株）入社
　雪印乳業株式会社から育児用品部門のみ分化され、大塚製薬（株）との提携により社名がビーンスターク・スノー（株）と変更され、栄養士業務を継続（2008年9月まで）
- ・2007年4月 八戸短期大学ライフデザイン学科非常勤講師及び八戸大学人間健康学部非常勤講師として採用される。
- ・2008年4月 八戸短期大学ライフデザイン学科准教授、八戸大学人間健康学部非常勤講師
- ・2015年4月 八戸学院短期大学ライフデザイン学科教授
- ・2018年4月 八戸学院大学健康医療学部人間健康学准教授（現在に至る）
　八戸学院大学短期大学部ライフデザイン学科非常勤講師（2019年3月まで）
- ・2020年4月 八戸学院大学短期大学部介護福祉学科非常勤講師（現在に至る）

1991年から2008年まで企業の栄養士として勤務していた18年間に多くの妊産婦や乳幼児との出会いがあった。母乳があふれるほど出ているのに仕事に復帰するために断乳を決意せざるを得ない人や、母乳不足のためにミルクを足したいけれど赤ちゃんがミルクを嫌がって飲んでくれないと話してくれた人。また産後の体重が戻らないと相談する人もいたし、赤ちゃんが泣いてばかりで、育っていく自信がないと泣きながら話してくれた人達がいた。

本来は病産院を訪問して会社の商品PRをすることが目的なのに、子育てに悩みながら一生懸命に赤ちゃんと向き合っているママたちを応援したいという想いで仕事をしていた。そして、その仕事にやりがいを感じてもいたのに退職し、大学の教員になってしまった。そのことに後悔はないが、何かの形で子育て中のママたちを応援したいと思い続けていた。2019年5月に子ども食堂の取組みの一つとして離乳食教室「ふるふる」を立ち上げたのは、そういう想いがあった。

近頃は家族スタイルが核家族化し、親と子の関係に様々な事情を抱え、妊娠しても親や家族を頼れない妊産婦たちが急増している。スマホや育児書を片手に一人でワンオペ育児を強いられているという現状に、子育て世代のママたちに寄り添いながら、行政や自治体と連携し応援していきたいと考えている。もちろん、子どもの成長とともに地域の子ども食堂への参加も呼び掛けていきたい。

2 県内の子どもの居場所活動紹介

青森県社会福祉協議会が把握している子どもの居場所のうち、38団体の活動を紹介します。
(令和3年12月現在)

No.	活動地域	名 称	No.	活動地域	名 称
①	青森市	ふれあい広場	⑯	弘前市	「みんなの食堂」 おいでえーる
②	青森市	みんなの食堂アヘル	⑭	八戸市	まんまるカフェ
③	青森市	こども食堂・じよいん	⑮	八戸市	ふれ愛・あおば食堂
④	青森市	桜川みんなの食堂	⑯	八戸市	健康キャンパス！
⑤	青森市	このゆびとまれ	⑰	八戸市	ちょうじゃこども食堂
⑥	青森市	ふれあい食堂	⑱	八戸市	ふれあいカフェ大久保の里
⑦	青森市	よこうちキッズぶれいす	⑲	八戸市	みんなの森のはらキッズ 夕暮れcafe
⑧	青森市	こども食堂 Cafeteria SunnySide	⑳	八戸市	離乳食教室「ふるふる」
⑨	青森市	ペントハウスこども食堂	㉑	黒石市	みんなの勉強室・食堂 ～くらら～
⑩	青森市	子ども広場	㉒	五所川原市	憩いの広場ここまる
⑪	青森市	みんなの居場所	㉓	五所川原市	いとか学園 こども食堂
⑫	青森市	サタディ☆くらぶ	㉔	十和田市	十和田こども食堂バス ・フードパントリー笑輪
⑬	弘前市	こどもレストランあっぷる	㉕	むつ市	ファミリープラザ まるめろ食堂
⑭	弘前市	子ども食堂すこやか	㉖	むつ市	まるっと。
⑮	弘前市	スマイルサンこども食堂	㉗	つがる市	館岡こども広場 JOMON
⑯	弘前市	弘前☆こども応援隊 マザーフィールド	㉘	中泊町	地域共生サロン みんなのやど
⑰	弘前市	母親カフェ	㉙	東北町	テクセン子どものひろば てくのろくんち
⑱	弘前市	東地区ちいきの絆食堂	㉚	五戸町	特別養護老人ホーム素心苑 喫茶おひさま
⑲	弘前市	みんなの居場所・わむすび	㉛	階上町	ばばちゃんカフェ

活動地域
青森市

1 ふれあい広場

開催日：月1回

開催場所：非公開

運営団体：公益財団法人青森県母子寡婦福祉連合会

連絡先：TEL 017-735-4152 / FAX 017-735-4160

boshi.center@joy.ocn.ne.jp

対象：ひとり親家庭

実際の参加者：ひとり親家庭の親子、他



子どもたちも片付けを
手伝えます。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

参加者は 30 名前後。

ひとり親家庭を参加対象とし、季節の行事に合ったメニュー、旬の食材を使った食事を提供しています。ふれあい広場開催前の午前中に行われている子ども達の学習会で勉強を教えてくれている学生ボランティアさんや、参加人数によっては調理スタッフも一緒に食事をしています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

参加者は 30 名前後。

コロナの感染対策として手指消毒、検温をし、席は間隔を空けて一定方向を向き黙食をしていますが、感染状況により中止する回数が増えています。コロナ後は栄養士の先生のお話も控えています。また、昨年は 2 度、弁当の無料配布に切り替えました。

開催の様子

3人の栄養士の先生が、毎月持ち回りでメニュー作成や調理指導の他、食事の時間に季節の行事や郷土料理、栄養と体について等お話をいただいています。また、青森市母子寡婦福祉会の年配の会員が調理スタッフとして活躍しています。

配膳や後片付けは子ども達や学生ボランティアの皆さん協力し、参加者全員が月1回の開催をとても楽しみにしてくれています。

参加者からは、「毎回、栄養と愛情たっぷりのご飯を作ってくれて、ありがとうございます。おいしそうな料理ばかりなので、お腹も心も幸せになります」という声が聞かれ、調理スタッフからは、「年齢的にもう無理だと思っていますが、皆様の笑顔が嬉しく子供たちの成長も楽しみです。びっくりするほど身長が伸びた子もいます。もう少し続けたいと思います。」と、多世代が和気あいあいとした時間を過ごす場となっております。

応援して欲しいこと

現在不足しているものはありませんが、継続していくための安定的な運営資金とスタッフが必要です。

今後の展開

コロナウイルスの影響により、昨年度は2度、弁当の無料配布に切り替え、今年度は一部開催を中止しました。今後も感染状況を見ながら実施方法を検討していきます。

運営者からのコメント

団体では以前から「子どもの居場所」を作りたいという声がありました。そのような中、「子ども食堂」の取り組みについて話を聞く機会があり、手探りではありました平成 29 年 6 月より「ふれあい広場」を実施することとなりました。

土日も働く親が多く、孤食で粗食になりがちな土曜日の昼食を、ひとり親家庭の子どもが友達や学生ボラ

ンティア、大人など世代を超えた様々な人と食事を共にすることは、子ども達にとって有意義な経験になっていると思います。

担当者：千代谷 成子

活動地域
青森市

2 みんなの食堂アエール

開催日：月1回、偶数月は第3金曜日の夕方

開催場所：東部市民センター

運営団体：みんなの食堂アエール

連絡先：TEL 090-4045-0882

対象：地域の子どもたち、保護者、高齢者。

実際の参加者：子どもが多い。また、その保護者。

一人暮らしの方。



〈東部市民センター〉



難しいところは大人に
手伝ってもらい、
おいしかったなあ。



「さあ、思い切って、返すよ。
せ～の～！パン！」



仕事終わりの親と一緒に参加。
この日は、お母さんの夕食作りもお休みですね。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：子ども無料、大人300円

用意する食事数は85食くらい。

月1回、食事を提供するほかに、絵本の読み聞かせ、学生ボランティアと体育館で遊ぶ、時には調理に参加したり、たくさんの交流がありました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：子ども無料、大人300円

会場として使用していた東部市民センターが休館となり、活動の拠点を失いましたが、やり方を変え、駐車場を利用しての弁当、支援物資の配布とし、寄付いただいた食材は鮮度を考慮して個別宅配にし、対応しています。

交流も、密を避けて行うため、希薄になってしまいました。

開催の様子

市民センターの一部使用許可の期間に、玄関先を利用し、「夏まつり」を実施。お弁当の他に、かき氷、くじ引きをやつたところ、階段に腰かけて食べている姿はほほえましく、早く元の姿に戻れることを祈りました。

「クリスマス会」では、調理室の使用ができず、お好み焼きの材料をセットにして配布し、自宅で楽しんでもらうことになりました。

他のプレゼントと一緒に受け取りに来た子どもたちの笑顔に救われるスタッフたち。

このつながりを途切れさせないようにと誓いました。

応援して欲しいこと

食材の寄付や運営費の寄付があれば助かります。

今後の展開

無理しすぎないよう、自分たちでできることを継続していきます。

当初から目標としていた、食事を通して人のつながりを持ち、リサイクルや学習支援につなげていきたいです。

運営者からのコメント

コロナ禍により、右往左往の連続ですが、単に食事を提供するだけにとどまらず、子どもを中心に、親、地域住民も巻き込んだ、互いに支え合えるコミュニティが築けたらと考えています。

これから始めようと考えている方は、まずはやってみてはいかがでしょうか。様々な協力の手がありますよ。

Let's go !

代表者：大塚 恵子

3 こども食堂・じよいん

活動地域
青森市

開催日：月1回、第3金曜日

開催場所：就労継続支援B型事業所・じよいん（キッチン・じよいん）

運営団体：社会福祉法人 義栄会

連絡先：TEL 017-743-5517 / FAX 017-763-0265

join5517@tsukimino.or.org

H P等：<https://www.tsukimino.org/>

対象：こどもから大人まで

実際の参加者：親子で参加が多い、子2/3、大人1/3。

1回の参加人数は約30名。



〈キッチン・じよいん〉



バイキング形式で、好きなものをとて食べます。



ちらし寿司の調理実習。



提供内容・コロナ禍前

利用料金：高校生まで無料、大人300円

食堂にて食事を伴う居場所の提供を実施しているため、最初は食事のみで利用者同士の談話等はあまり見られていませんでした。しかし回数を重ねるごとにスタッフとの会話も増え、家庭でのことや学校での出来事を気軽に話し、何気ない笑顔が見られるなど、コミュニケーションが深まりました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：高校生まで無料、大人300円、完全予約制

コロナ禍のため弁当配布に切り替えも、休まず定期開催しています。

弁当を手渡す際に利用者と軽い会話をし、元気でいることを確かめ合うなど、つながりが感じられています。

食堂まで出向けないご近所さんの分も受け取り、配達する利用者もおり、地域同士の助け合いの姿が見られています。

開催の様子

感染予防のため食事提供から弁当配布に切り替えていましたが、一度つながった利用者が口コミで情報を共有しながら人數を増やしています。子どもの利用者数は変わっていませんが、大人が少しずつ増えています。

コロナ前はバイキング形式だったため、子どもたちは好きなものを選んで食べられたので楽しそうにはしゃいだ声が聞かれていました。

現在は、配布された弁当を受け取る際にメニューを確認して一喜一憂してほほえんでいたり、弁当受け取りの際、兄弟で来て持つ役を取り合って抱え嬉しそうな姿が見られています。

スタッフから様子を尋ねられた子どもたちは、最近の出来事など元気いっぱいに、あるいは恥ずかしそうに答えています。

応援して欲しいこと

町内の回覧板等に告知していないため、現在は口コミで利用者が訪れています。もっと効果的に情報が欲しい人に届く告知ができると助かります。

運営者からのコメント

最初は食事の提供だけでしたが、回を重ねるうちに自分達で調理するなど工夫をしながら継続することで顔見知りになり、お互いの家族の話をできるまでに信頼関係を築くことができました。

これから開催してみたい人は、ぜひ、継続して開催することをおすすめします。また、初めて利用する人は、まずはお弁当の時だけでも

良いので、気楽に参加してください。スタッフ一同お待ちしております。

代表者：浅理 寿子

今後の展開

スタッフや利用者もワクチン接種が終わり、コロナ感染が落ち着いたらまた食堂を再開したいです。

活動地域
青森市

4 桜川みんなの食堂

開催日：毎月1回（第3日曜日を基準に、変動あり）

開催場所：桜川福祉館

運営団体：一般社団法人フェリーチェあおもり

連絡先：〒030-0945 青森市桜川 2-4-11

white_meteor78@hotmail.com

HP等：<http://f-aomori.com/>

対象：子ども、大人含めた地域の住民

実際の参加者：赤ちゃんから中学生程度までの子ども。

またその保護者、地域の高齢者。



〈桜川福祉館〉



調理実習、とうもろこしの
天ぷらを作っています。



とうもろこしごはんのために、
つぶをとっています。



りんごのパフェを
作っています。

提供内容・コロナ禍前

**利用料金：高校生までの子どもと
65歳以上の高齢者、
無料。大人300円。**

自分で作って自分で食べる、をコンセプトに、調理実習後の食事提供を実施していました。

参加者は赤ちゃんから高齢者まで多様で、高齢者が中学生に包丁の手ほどきをする姿も見られていました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

コロナ禍のため飲食提供を休止し、ワークショップ（スライム作り、新聞工作、スーパーボール作りなど）を開催しています。

お土産にお菓子やジュースを渡し、自宅で食べてもらっています。

お菓子は購入、または寄贈されたものを使用しています。

開催の様子

感染予防対策のため、その場での飲食の提供を中止し、ワークショップに変更して居場所の提供を続けています。その際、「ご飯じゃないなら行かなくてもいい」という声も子ども本人から聞かれています。

ワークショップに変更後、常連参加者の減少が見られましたが、新規参加者も増加しているので、参加者の入れ替わりが見られており、人数は変わっていません。

ワークショップの参加者は明るい様子で特に変わった様子もないです。子どもだけの参加、または一家全員で参加するなど形態はさまざまで、笑顔や歓声が聞かれています。

1回100円のこどもくじを実施し、運営資金に充てています。

21年6月より、月1回の食料配布会も開催しています。

応援して欲しいこと

ボランティアスタッフが少なく、開催時の見守り手が欲しいです。材料費やおみやげお菓子代、運営費も厳しいです。

人口の8割を超えるようであれば、食堂も再開したいです。

わらず、地域の誰かと気兼ねなく交流できるスペースがあるといいと思います。

まずは安心して人が集まる場所を提供していきたいです。

今後の展開

月1回のワークショップ、おこそわけ会のほか、放課後の居場所づくりで毎週水曜日にマンガ図書館を運営。コロナワクチンの接種者が

運営者からのコメント

地域住民の憩いの場となるよう、活動しています。コロナ禍が落ち着いたらもっと精力的に活動し、コロナ禍だからこそ必要とされる支援をしていきたいです。

「こども食堂」や「みんなの居場所」など名前にこだ

代表者：鈴木 杏子

活動地域
青森市

5 このゆびとまれ

開催日：月1回、第3日曜日 10:00～16:00

開催場所：青森市大野鳴滝 64-35

運営団体：このゆびとまれ

連絡先：TEL 090-8924-1608

yumeaomori@yahoo.co.jp

対象：子ども（年齢問わず）、地域住民



〈このゆびとまれ〉



提供内容・コロナ禍前

利用料金：子ども 100円、大人 100円

当初他の場所で開催していましたが、参加が少人数のため、よりアットホームに運営するために自宅を開放し、食事と遊び場として提供しています。

お出汁にまつわる食育についての勉強もできます。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

コロナ禍のため食事の提供はしていませんが、参加者へお土産としてお菓子・お出汁を差し上げています。

開催の様子

自宅を開放して開催しています。1階リビングで話を聞いたり、いろいろなゲーム（ゲーゴルゲーム、ソフト、ゴルフ、輪投げ）をしています。2階におもちゃがあるので自由に遊ぶことができます。子ども食堂に大学生の参加もあります。

発達障害を抱える子ども達が、出汁からミネラルを補給し、正しい食生活をすることで劇的に改善し、順調に成長した例を挙げて、ミネラルと健康についての

お話しもしています。

応援して欲しいこと

学習支援等のボランティア要員が必要。

運営者からのコメント

本や情報から、発達障害の子どもたちが生きづらさを抱えていることを知り、また正しい食事法を身に着けることでその症状をおさえられることを知りました。

そういった子どもたちと保護者の息抜きの場所になれたらと始めました。

今まででは口コミだけでしたが、今後はチラシなど、積極的に呼び込みをしています。

ぜひ気軽に遊びにいらしてください。

このゆじとまれ ●

代表者：工藤 真理子

今後の展開

コロナの状況が落ち着き次第、食事ありの居場所の提供をしていきたいです。

活動地域
青森市

6 ふれあい食堂

開催日：月1回、第4土曜日（祝日変更あり）

10:30～13:00

開催場所：デイサービスみちのく

運営団体：社会福祉法人みちのく白寿会

連絡先：TEL 017-744-7587 / FAX 017-744-7581

michinoku-kyotaku@aurora.ocn.ne.jp

HP等：http://m-hakujukai.com/02_office.html

対象：5歳児～小学6年生までの子ども

実際の参加者：地域の子ども 10名、その他併設の有料老人ホーム入居者4～5名が参加



〈住宅型有料老人ホームみちのく〉



流しソウメンを
開催しています。



カレーライスを
食べています。



一緒にパズルを
楽しんでいます。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：子ども無料、同伴の大人はお弁当の持参をお願いしています。

限定10食、施設の厨房にてスタッフが調理します。

施設利用の高齢者やスタッフ、その子どもたちなど、多世代が交流し食事を摂っていました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

隔月で「こども宅食おすそわけ便」を開催しています。寄贈された食料品、日用品、学用品等を配布しています。参加は主に地域住民で、地域外の遠の方も訪れています。

開催の様子

開始時間前から家族連れが列に並び、自分の番が来ると、スタッフに促され、照れた様子の子どもたちが学用品を受け取っていました。展覧会のチケットなどもあり、体験機会の提供もしています。以前「ふれあい食堂」を開催していた時よりも、たくさん的人が参加してくれています。

参加した子どもからは、明るく「ありがとうございます！」の声が聞かれていきました。

人々、子どもだけでなく誰でも来られる場所、高齢者への地域貢献を還元できる場所として活動しているので、今後も多世代交流の場にしていきたいと考えています。

応援して欲しいこと

配布する食料品や日用品などを協力して欲しいです。

運営者からのコメント

ふれあい食堂がどういう場所なのか、気軽に見に来て欲しいです。世代間で分断されているハードルの高さを低くして、受け入れてもらいやすい場所を提供しています。

また、開催してみたい人は、仲間づくりをしてほしいと思います。

調理や準備など人的資源は大事だし、地域の人や志を同じくする人とつながり

開催していくことが必要だと思います。

コロナで分断されがちだからこそ、つながっていきたいです。



社会福祉法人
みちのく白寿会

理事長：大村 守武

今後の展開

コロナ収束後に食堂を再開予定。相談コーナーを設けて、地域の方々の役に立ちたいです。

7

よこうちキッズぷれいす

活動地域
青森市

開催日：毎週月曜（祝日も開催）
開催場所：横内市民センター
運営団体：よこうちキッズプレイス
連絡先：info@kids.45uchi.com
HP等：<https://kids.45uchi.com/>
対象：小学生
実際の参加者：10名弱程度（子ども及び大学生スタッフ）



〈横内市民センター〉



集まつたら、まずは宿題、勉強をします。



自分たちで考えながら、カレーを作ります。時には失敗することも。



大盛りカレーも、全部お腹に入れます。



普段できない体験もたくさん行っています。（ねぶたの面づくり）



空き缶コンロでいつでもご飯を炊けるように防災意識醸成。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

毎回食事を提供しているわけではなく、子どもたちにやりたいことを聞き、それに合わせて提供しています。

宿題の後でドローンを飛ばしたり、調理実習をしたり、ひょうたんランプを作ったりなど、活動は様々でした。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

活動内容はコロナ前と全く変わっていません。団体の認知度が上がったためか、参加する子どもも増えています。

子どもたちの様子は明るく活発で、コロナ禍の影響は見られていません。

体験学習から副産物的に食事を提供しており、みんな楽しそうに食べています。

開催の様子

原則は事前登録制ですが、突然友達を連れて来る子もいるので、その時は都度対応しています。

保護者との連携も取れており、調理実習の際は夕食をここで食べると連絡したり、「宿題をしっかりやらせて欲しい」と要望を受けたりもしています。

和室と調理体験の際は調理室を借りており、子どもたちは自由に行き来し、それぞれ調理、宿題、自由遊びなど、興味

のあることをしていました。

調理は説明ややり方を教えず、失敗したら不味くても食べる、というスタイルで、終始子どもたちはしゃいだ笑い声がありました。

応援して欲しいこと

ご寄付や、食材（特にお米）が頂けると助かります。

今後の展開

このまま継続していくみたいです。また、活動を共にする中で、大学生ボランティアが社会貢献活動に興味を持つてもらえるように取り組んでいきたいと考えています。

運営者からのコメント

基本的にゲームやスマホも持ち込みはOKだし、遊んでいても構いません。しかし、それを超える面白い体験をここで知って、夢中になって欲しい、というコンセプトで活動しています。

失敗しても、自分で考え行動する子どもを応援したいです。

代表者：小野 康一郎

活動地域
青森市

8 こども食堂 Cafeteria Sunnyside

開催日：不定期（月1回程度）

奇数月は青森子ども宅食『おすそわけ便』の開催

開催場所：こども食堂 Cafeteria Sunnyside

運営団体：社会福祉法人 南福祉会

連絡先：青森市北金沢2丁目18-1

TEL 017-776-6216

HP等：<https://www.minamifukushikai.com/sunny>

対象：子ども、小学生のほか、地域の方々

実際の参加者：子ども、小学生、親子連れ、地域の高齢者など



⟨Cafeteria Sunnyside⟩



配布される
野菜の詰め合わせ。

千本引きくじを
楽しむ子どもたち。



地域の高齢者も楽しみにしており、
開始前から列を作っています。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：---

2020年5月から開始した活動となります。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

新型コロナウイルス感染症の影響で、休校となった学校給食の食材を利用して調理した「カレーライス」や「サラダうどん」等の飲食物の提供、お弁当の配布の他、青森こども宅食『おすそわけ便®』(食品等のお渡し、フードパントリー)などを行ってきました。

開催の様子

調理は施設内の厨房にて、栄養士・調理師スタッフが行っています。

地域の高齢者が楽しみにしており、声掛けをしあいながら、感染予防のため距離を取り譲り合ってお弁当などを受け取っていました。

また、活動資金の募金箱に笑顔で募金しているのが印象的でした。

こども園や小学校の帰りに通りかかった近隣在住の親子や、友達同士連れだつ

てお弁当を受け取る子どもたち、小学生等の笑顔が見られます。

配布される手作りお弁当の他に、寄贈された食品等の配布もしています。

応援して欲しいこと

賞味期限に余裕のある食品や日用品、子どもたちの使用する文房具などの寄贈があれば、一緒に配布することが出来るので、大変助かります。

今後の展開

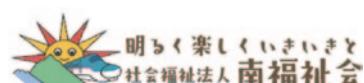
現在はお弁当や食品等の配布のみとなっていますが、感染症の状況が落ち着き次第、食事の提供(居場所作り)を再開したいです。

運営者からのコメント

こども食堂は開かれた居場所です。

地域の皆様と同じ食卓を囲んで、多世代の思いやりの「心」を養う場所。

そして、地元の食材を使用して、新鮮でおいしい食事・食育活動を行い、歩いていけるところに、地域の皆様の心が休まる「温かい居場所」の提供が出来るよう、活動していきたいと考えています。



代表者：姥名 將之

活動地域
青森市

9 ペントハウスこども食堂

開催日：毎週水曜、木曜（事前予約制）

開催場所：PENT HOUSE

運営団体：ペントハウスこども食堂

連絡先：TEL 017-762-7218 / FAX 017-762-7218

info@qlokup.net

対象：小学生、中学生は無料、保護者は300円



〈古川スノーランドビル 3F〉

店内は落ち着いた
雰囲気。



大人300円、子ども無料で
本格メニューが食べられます。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：中学生まで無料、大人は300円

子どもだけで来る利用者はおらず、保護者と来る子どもがほとんどです。

毎週水・木の両日来る親子もあり、嬉しそうにご飯を食べてくれます。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：中学生まで無料、大人は300円

コロナ禍で店を開けられない日もあったため、利用者も減っていきました。

現在は予約が入らないため活動を休止していますが、予約があれば対応していきます。

開催の様子

食事を伴った居場所の提供を実施。

近隣小学校の子どもたちの利用がほとんどで、静かに落ち着いてご飯を食べる姿が見られていました。

食材はほぼ購入ですが、一部ご寄付頂いたものもあり、ノートやペンなども寄付があった際には子どもたちにお土産として配布しています。

応援して欲しいこと

チラシ等の印刷費、告知費用。また、小中学校との情報共有ができれば助かります。

運営者からのコメント

テレビで困窮しているために一日の食事回数を減らしている親子の話を知り、給食費の納入が遅れる子どもが多いとも聞きました。

こちらは飲食業なのでスピード感をもって始めることができました。

子ども食堂をやりたいという問い合わせを多数いただいています。

色々な場所、形態の食堂がでけて、活動が広がって

くればと思っています。

遊びに来たい人は、遠慮せずにどんどん訪ねて欲しいです。

代表者：中村 公一

今後の展開

子どもだけで来てご飯を食べ、遊べるようなコミュニティを作りたいです。

保護者支援もしていくたいです。

活動地域
青森市

10 子ども広場

開催日：月1回、第4日曜日

開催場所：青森大学

運営団体：社会福祉法人 平元会

連絡先：TEL 017-738-3711 / FAX 017-738-3101

対象：未就学児、小学生とその保護者

実際の参加者：20～30人程参加



たくさん素材をそろえて
いるので、好きなものを作
れます。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：---

コロナ禍後の活動です。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

石けんを作ったり、青森大学のグラウンドを走り回っての宝探しなどワークショップを開催しています。

コロナ禍のため窮屈な思いをしていたのか、屋外での開催に子どもたちは思いっきりはしゃいでいた印象を受けました。

今後はコロナの感染状況を踏まえて開催する予定です。

また、状況によっては場所を変更しながら行うことも検討中です。

開催の様子

初回のプログラムでは、サイエンスコーナーなどのブースをいくつも作り、そのためか、自分の好きなコーナーには何度も足を運び、親子で新しい発見があったようで、「おー！」「すごーい！」という反応がありました。

英会話をしながらのゲームは、ボランティアの学生と一緒に行ったので、不安もなく、英語の学習もできたので、子どもたちからのオファーがたくさんありました。

した。

市内でのコロナ感染が増え始めてからは外での活動が多くなったですが、大声を出しながら元気に走り回る子どもたちの様子に、スタッフも元気をもらいました。

応援して欲しいこと

一緒に活動を行ってくれる学生ボランティア募集しています。

今後の展開

現在は「こども宅食おそそわけ便」のみの開催ですが、今後はコロナの感染状況をふまえながら、子ども広場の開催を検討していきます。

運営者からのコメント

社会福祉法人は、地域の相談窓口として必要なことがあれば行っていかなければならないと思っていました。

地域においては、子ども問題は必然であり、子ども・子育て世帯の抱える問題に気づき、支援につなげたい、子どもと大人の交流を深めるコミュニティの根拠としてかかわっていきたいと思っていました。

回を重ねるたびに、様々なイメージが湧いてきます。これから始めたいと思う方は、地域に協力してくれる方がたくさんいると思いますので、パイプとなる方を探し、協力体制を整えてみてはどうでしょうか。

代表者：三浦 幸子

活動地域
青森市

11 みんなの居場所

開催日：月1～2回

開催場所：アピオあおもり

運営団体：地域応援チームうらまち

連絡先：TEL 090-2020-7550

chi3183@yahoo.co.jp

対象：どなたでも

実際の参加者：親子～高齢者



〈アピオあおもり〉



広告の紙でゴミ入れを作ります。



私たちは、うさぎさんを作ります。



高校生大学生による読み聞かせ。
長～～い絵本 どこまで続くの？

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

アピオあおもりにて、2部屋借りて開催。カフェとプレイルームに分け、居心地のいいスペースを提供しています。

カフェでは無料で自由にお菓子が食べられます。

プレイルームにはおもちゃが置いてあるので、好きなものを選べます。また体操教室で、思い切り体を動かして遊ぶこともできます。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

提供内容は、コロナ禍前と変わりませんが、休止回数が増え、参加者も減りました。

開催の様子

今年度は昨年以上に新型コロナ感染症が若い年齢層に拡大し、開催が困難でしたが、減少傾向に見られた11月から5回実施しました。高校生大学生ボランティアには、無理をせず協力できる時に参加して頂きました。

地域の方は「人と会ってお話しできるのが嬉しい」、親子の方々は「子供が遊べる場所が少なくて困っている」と近況を話されていました。最初緊張していた

子供達も慣れてくると、地域の方々と一緒に折り紙を折ったり、絵を書いて遊びました。

また、高校生大学生による読み聞かせは10mほどの長い絵本で、全員が左から右へ顔を動かし、どこまで続くのかなと思いながら聞き入っていました。

小学校で読み聞かせボランティアをしている地域の方は、大学生と意気投合し、とても楽しそうでした。

応援して欲しいこと

「みんなの居場所」はアピオあおもりで開催しています。どなたでもお気軽にご参加ください。

運営者からのコメント

地域と子育て世代、高校生大学生の世代間交流を図り、互いに認め合いながら悩みや本音、他愛のない事も話せるあったかい『居場所』を一緒に作って行きましょう！

今後の展開

コロナ禍が収束し、計画どおり実施したいです。

代表者：工藤 知久子

12 サタディ☆くらぶ

活動地域
青森市

開催日：毎週土曜日の午前中約2時間

開催場所：青森市内（非公開）

運営団体：青森家庭少年問題研究会

連絡先：TEL 017-773-9251

ao.satakura@gmail.com

H P等：<https://www.saibanhon.com/aomorishonen.html>

対象：ひとり親家庭の小学生、中学生

実際の参加者：子ども9人、大学生ボランティア12人、スタッフ2人。

1対1の学習支援が中心ですが、調理実習など食に関する行事も実施しています。



大学生と参加児童はマンツーマンで学習支援をします。



コロナで集まれない時はZoomでの支援も。



勉強をやる気になるまでゲームをすることも。



休憩時間用のおやつ。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

おやつを伴った学習支援を実施。利用する子どもと担当する大学生が「ナナメの関係」で支援し、落ち着いた状態で自分の学びたい科目を自分で選んで勉強できるように環境を整えています。

また、学習だけでなく、大学文化祭の模擬店への参加、スポーツ交流会、宿泊キャンプなど、親睦を深めるイベントも開催しています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

対面で実施する場合は、換気や消毒など感染症対策に気を付けています。

新型コロナの蔓延で施設が使えず、大学生のサークル活動に制約がある場合は、Zoomを利用して学習支援を行うなど活動の継続に努めています。

飲食を伴うイベントが実施できないため、子どもたちと大学生との交流を深める機会が減ったことが課題です。

開催の様子

勉強は、大学生とおしゃべりできる「おやつの時間」を挟みながら、前半と後半約1時間ずつ行っています。

自発的に勉強する子が多いのですが、小学校低学年では立ち歩く子も見られました。そういう時には、大学生が子どものペースに合わせて声掛けし、子ども自身の自然な興味を引き出せるように関わっていました。

新型コロナの影響で対面での学習支援

ができない時期がありましたが、利用する子どもから「家にずっといて、息が詰まった。大学生と会えてさっぱりした」という言葉も聞かれたところで、この学習会が子どもたちの生活の中で一つの交流の場となっているようです。

応援して欲しいこと

感染防止のため、一人ずつペットボトルの飲み物が必要です。(今までには、大きなボトルから紙コップで分けていました)

今後の展開

コロナが落ち着いたら、ぜひ宿泊キャンプを再開したいです。

ここを巣立った子どもが大人になった時に、この活動を思い出し、どこかで学習支援を実施する側に立つなど支援の循環が生じれば、それがこの取組の成果だと思っています。

運営者からのコメント

子どもを中心として地域の人々がつながり、たくさんの居場所が生まれ、広がっていくことを期待しています。

我々の活動は、対象をひとり親家庭の子どもに限定しているため、地域に根ざした活動とはいえませんが、この活動を通じて県立保健大学、母子寡婦福祉連合会、BBS会、社会福祉士会など様々な団体とのつながりが生まれ、地域全体の活性化

につながっています。

子どもの居場所づくりの運営団体では、スタッフや協力者を求めていました。このような活動に興味のある方には、ちょっとした協力でも構いません。ぜひ関心のある団体にお声掛けしていただければ幸いです。一緒に地域を豊かにしていきましょう。

共同代表：最上 和幸

13 こどもレストランあっぷる

活動地域
弘前市

開催日：月2回、第2・第4木曜日

開催場所：弘前市豊原1丁目1番地 りんごの樹 1F

運営団体：社会福祉法人 愛成会

連絡先：TEL 0172-33-1182

対象：幼児～小学生、保護者

実際の参加者：子ども、保護者あわせて20人程度



〈りんごの樹〉



夏はやっぱり冷やし中華。



提供内容・コロナ禍前

利用料金：子ども無料、大人は初回無料・2回目以降300円

月2回の開催、1回につき子ども10名、大人7名の参加がありました。1か月の延べ参加者は35人前後です。

保育所等を利用している親子連れが、毎回参加してくれています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：子ども無料、大人は初回無料・2回目以降300円

状況に応じてお休みすることもありますが、開催できるときは、第2・第4木曜日の2回に分けて各日10名ずつに振り分けし、さらに17:30から、18:30からの2部制にして、5名ずつ参加を受け付けています。

開催の様子

開催場所が狭く、たくさんの参加者を一度に受け入れることは難しいですが、狭いからこそ隣のテーブルの様子がわかるので、会話の輪が広がっているようです。

メイン層は幼児で、保育所等を利用している子どもたちが親子で参加しています。卒園した後も縁が切れず、小学生になっても遊びに来ています。

コロナ前は参加人数が多く、ワイワイ

と騒がしく活気がある様子でしたが、現在は感染予防のため1回の参加人数を制限しています。人数を絞ったため参加機会は減りましたが、参加者の顔ぶれは変わらず、その分ゆっくりと、時間を大切に過ごせています。

子ども食堂といつても貧困支援ではなく、忙しい保護者が子どもと向き合ってゆっくり過ごせるよう配慮しています。

応援して欲しいこと

機材等そろってきたので、現在は大丈夫です。

運営者からのコメント

県内に子ども食堂が1件もなかった頃、子どもたちの食と貧困の支援を目的として活動を開始しました。

しかし貧困支援を掲げていると参加者が少なかったため、現在は方向転換しレスパイト機能をもった子どもたちの安全基地として、地域の家族の丸ごと支援を掲げて活動しています。

こういった食堂はもっと増えたほうがいいので、ノ

ウハウは開示しています。開催している限りはいつでも見学を受け付けています。



代表者：佐々木 哲

今後の展開

地域への恩返しも兼ねて、このまま継続していきたいです。

14 子ども食堂すこやか

活動地域
弘前市

開催日：毎月第2土曜。春夏冬休み等はもう1回ずつ。

開催場所：弘前市社会福祉センター

運営団体：子ども食堂すこやかプロジェクト

連絡先：TEL 090-3364-9491/FAX 0172-33-9160

対象：高校生までの子ども、その保護者

実際の参加者：おおむね第一中学校区の小中学生。

市外在住でも保護者の勤務先が市内であれば
参加できます。



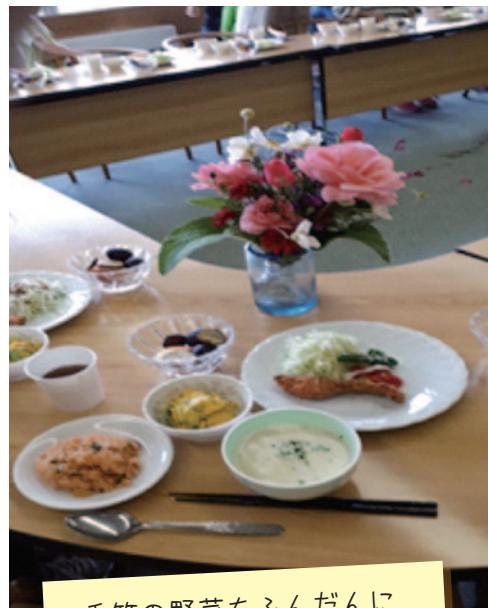
〈弘前市社会福祉センター〉



夏休みの思い出づくりとしての
「野外バーベキュー会」。



クリスマスには、手づくり感
いっぱいの参加者の音楽会。



季節の野菜をふんだんに
使ったメニュー。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

新型コロナウイルス感染の不安がなかったので、参加者はのびのびとしていました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

開催の有無、開催内容（学習支援と会食の有無あるいはお弁当のお持ち帰り等）を事前に判断し、参加者・ボランティアスタッフに連絡しています。

感染防止対策には緊張して対応しています。

早めに会場に行き、消毒しています。

開催の様子

参加者もスタッフもお互いに居場所になれるように努力してきました。

継続して参加してくれる女子高校生は、県外からの転校を契機に小中学校を休みがちで過ごしましたが、当子ども食堂では休むことも少なく、徐々に学校の勉強道具等持参するようになりました。小さい子の面倒見もよく、おしゃべりの好きな生徒です。

高校生活は休むことも少なく楽しん

で通学しています。高校生になってからはスタッフとして活動しています。

長く参加しているので全体の動きもわかるし、新しく参加した子への配慮もできますので、頼りになる存在として成長している姿は私たち大人の励みにもなっています。

応援して欲しいこと

寄贈された米が潤沢にあるのですが、収穫期は新米で秋を感じるメニューにしているため、新米5キロから10キロあれば嬉しいです。

運営者からのコメント

子どもの「居場所づくり」を始めるきっかけは青森県の「子どもの貧困」がキーワードでした。

何か自分のやりたいというキーワードに賛同する人はたくさんいると当初から感じています。

満5年経過する中で、地域の居場所づくりのネットワーク会議ができ、横の連携も活発になってきました。

しかし、事業展開の継続

には「人・物・金」と言われていますのでこれらの環境をどう整えるかです。

中でもかかる人が多くなるにつれ、事務局を担う人が重要だと感じています。



事務局長：佐藤 まさ

今後の展開

年間16回開催の予定です。

15 スマイルサンこども食堂

活動地域
弘前市

開催日：4月以降は開催曜日は未定

開催場所：弘前市浜の町東4丁目2-6

運営団体：社会福祉法人聖陽会

連絡先：TEL 0172-36-4264 / FAX 0172-26-8525

sankodomoen@yahoo.co.jp

対象：小学生～高校生

実際の参加者：平均13名くらい、主に小学生で中学生は数名。



〈幼稚園跡地を利用した〉
子ども食堂専用の建物

勉強をしたり、
おしゃべりをしたり。



豚丼と玉子スープ。
箸休めにお漬物と、
パインとゼリー。



食事の前には
そろってご挨拶をします。



提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

電話にて予約制です。

移転した幼稚園の跡地を利用して、毎週、月・木曜日に子どもたちが集まっています。

月曜日に囲碁の教室を開催。食事はないですがお土産におやつ、ジュースを持たせています。

木曜日に食事を伴った居場所の開催をしています。食材はお肉などを一部購入しますが、ほとんどは園で育てている無農薬野菜などです。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

一時閉鎖していましたが、再開後も開催頻度は変わっていません。

要望のあった習字教室を月曜日に開催するようにしました。必要機材等は、使わなくなった道具を寄贈していただいたのを大切に使わせていただいています。

木曜日には食事を伴った居場所の開催。施設中の窓を開け放ち、感染対策をしながら開催しています。

開催の様子

学校から来ると宿題を済ませたのち、ここで会う学年やクラスを越えた友達と遊び始めます。絵画や鬼ごっこ、トランプ、カルタなど自由に遊びを各自で楽しんでいます。

食事が出来上がると子どもたち自身が配膳の手伝いをして、そろって夕食を食べ始めます。自由遊びの際には元気に跳ね回っていた子どもたちが、食事の際にはしっかりと着座して落ち着いた様子で

ご飯をいただきます。小さな子がどんぶりで食べ、ご飯をおかわりする姿は圧巻でした。

また、月2回（第2・4週目）、弘前大学ボランティアセンターの学習支援を行っています。

応援して欲しいこと

機材など、現在は足りていますが、応援していただいたものには子どもたちにとって魅力があり喜ばれています。

今後の展開

このまま継続して開催し、コロナが落ち着いた頃には、地域の大人も低料金で食事に参加できるよう、輪を広げていきたと思っています。

運営者からのコメント

きちんと食事を摂らないと勉強に集中できません。活力になる郷土料理や園の畠でとれた野菜をお腹いっぱい食べて心を癒し、ここでの学びで協調する心、思いやりの心、全体の中での態度・気づきなどを身に着けることができます。

囲碁教室や習字教室で「道」を学び、「あいさつ」で始まり「あいさつ」で終わる礼儀も自然に身についてい

きます。

連絡をくだされば見学もOKです。子ども食堂をやりたい方は色々な所を見学し、自分の条件と照らし合わせて自分なりのやり方を見つけていって欲しいです。

代表者：谷川由紀子

活動地域
弘前市

16 弘前☆こども応援隊 マザーフィールド

開催日：毎週水曜日に学習会を実施

開催場所：弘前商工会議所

運営団体：特定非営利活動法人マザーフィールド

連絡先：TEL 0172-26-6032

info@mother-field.info

HP等：<https://mother-field.info/>

対象：ひとり親家庭の小学生から高校生まで

実際の参加者：小学生から高校生まで3～6名



〈弘前商工会議所〉



コロナ前の様子。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

- ・食事を伴った居場所
- ・食事なしの居場所の提供
- ・学習支援会

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

- ・食事を伴った居場所
- ・食事なしの居場所の提供
- ・学習支援会

開催の様子

大学生のボランティアが来てくれるの
で宿題の分からないところを教えても
らったり、勉強が終わった後はゲームを
したりと参加するのを楽しみにしている
ようです。不定期ではありますが、お寺
様からのおやつの配布もあり、ワイワイ
と分け合っています。

コロナでいろんなことに制限がありま
したが、西目屋村にバス遠足に行き、水
陸両用バスにも乗り久々のみんなでの外

出を楽しんでおりました。

応援して欲しいこと

特になし。

運営者からのコメント

<参加を御希望の方へ>
弘前☆こども応援隊 マ
ザーフィールドは、経済団
体である弘前商工会議所会
員有志によって運営してお
り、弘前市内のひとり親家
庭の子育てと仕事の両立を
支援している団体です。

毎週水曜日に弘前商工会
議所で開催しております。
「どんな感じか気になるな
～」「参加してみたいな～」

など、気になる方は、お氣
軽にご連絡ください。



代表者：永澤 弘夫

今後の展開

クリスマス会などのイベ
ントもやる予定です。

活動地域
弘前市

17 母親カフェ

開催日：年5回（2～3か月に1回程度）

開催場所：弘前乳児院

運営団体：弘前乳児院

連絡先：弘前市大字品川町152

TEL 0172-35-2155 / FAX 0172-31-5252

nyuujiin@abeam.ocn.ne.jp

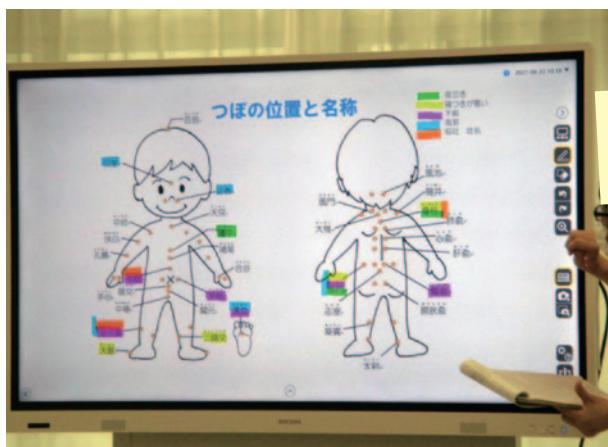
HP等：<http://hirosaki-nyuujiin.jp/>

対象：子育て世帯の母・父・子

実際の参加者：母子の参加が多く、1回あたり7～8組程度



〈弘前乳児院〉



大画面でわかりやすく説明。



46

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

わらべうたを歌いながらのベビーマッサージ教室を開催しています。

食事提供はしていませんが、マッサージ教室の後にはお菓子を食べながら談話する時間がありました。参加者同士、互いのお子様のことや子育てについての話に花を咲かせていました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

開催頻度は変わらないですが、市内のコロナ感染の状況次第で中止することもあります。

現在はお菓子の提供は休止し、距離をとっての談話のみとしています。

開催の様子

コロナ禍の現在は、感染予防対策として参加人数に制限を設けています。参加人数は、申し込み数自体が減少しています。

イベントが少ないため、参加してくれる親子には、リフレッシュの場として喜ばれています。

マッサージを始めようとするとお母さんから離れず、不安な様子の赤ちゃんもいましたが、抱っこしたままマッサージ

をしていくと、いつの間にかお母さんから離れ、とびっきりの笑顔を見せ母子で楽しそうに過ごしている場面がありました。

泣き出してしまった赤ちゃんには職員が対応し、お母さんは赤ちゃん人形を使ってマッサージ指導を受けられるようになりますなど、安心して参加できる雰囲気で取り組んでいます。

応援して欲しいこと

特になし。

運営者からのコメント

養育に関する専門職集団である乳児院職員として、地域の子育て世代のために居場所づくりを通して地域で一緒に子育てを！と考え、始めました。

乳児院は養育に関する専門職集団です。

「いやいや期のお子さん」や「場面の切り替えが難しい時期のお子さん」など大変だなあと思っていることや、工夫していることなど

について先輩ママさんや乳児院職員からヒントを得たり、また、子育ての楽しさを共有出来たらいいなあと思っています。

どうぞお気軽に足を運んでいただけたらと思います。

代表者：宮崎 春子

今後の展開

このまま継続していくます。

活動地域
弘前市

18 東地区ちいきの絆食堂

開催日：月1回（不定期）

開催場所：弘前市総合学習センター

運営団体：東地区ちいきの絆食堂

連絡先：TEL 090-5835-6364/FAX 0172-26-0738

H P等：<https://www.facebook.com/kizunasyokudo>

対象：東地区地域住民

実際の参加者：小学生が多いが、地域の高齢者も参加している。



〈弘前市総合学習支援センター〉



ハンバーグの上に、盛りだくさん。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：子ども無料、大人300円

毎月一回、市の総合学習センターで食事と遊びの場を提供しています。料理は参加児童の保護者や、地域の高齢者が腕を振るっています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

感染状況を見ながら開催を実施。弘前大学と協力し、大学生が勉強を教えてくれる学習支援と、弁当配布に切り替えて活動中です。

開催の様子

コロナ後は、参加する子どもたちから「外で遊べない」「家族での外出がない」など残念がる声も聞かれていますが、参加している際の楽しそうに遊ぶ姿は変わりない様子です。

普段、家では手伝いをしない子ども達も自分から料理を手伝い、できることが少しずつ増えています。

子ども達の成長を承認する力が、地域にはあります。

学校や家族以外の大人との出会い、多様な大人との出会いや、つきあいが子ども達に良い影響を与えています。

応援して欲しいこと

食材等は補助金で貰っているので、活動メンバーの交通費等があると嬉しいです。

運営者からのコメント

立ち上げた経緯は、町内会活動から地域コミュニティへと至りました。年齢にこだわらず、みんなが交流できる場所を作ろうと思いました。

遊ぶ場所を選べることが大事だと考えています。

やりたいと手をあげれば、サポートしてくれる人はいます。口に出せば集まってくれます。

ご興味のある方は、ぜひ

「みんなの居場所」をやってみてください。

代表者：中田 早樹子

今後の展開

このまま継続していくたいです。

19 みんなの居場所・わむすび

活動地域
弘前市

開催日：①みんなのお風呂・みんなの居場所わむすび（月1）

②学校にいけない・行くことができない子の居場所わむすび（週3回）

③母と子の相談所（週3回）

開催場所：一般社団法人プラシア

運営団体：一般社団法人プラシア

連絡先：TEL 090-2971-4579 / FAX 050-3164-7226

plusia.hirosaki.2018.wamusubi@gmail.com

HP等：<https://plusia-curam.amebaownd.com>

対象：18歳までの子とその家族。家族での参加となります。

実際の参加者：保育園・小学校の子どもとその家族の参加が多い。

1家族3～5名で5～6家族が毎回参加している。



〈一般社団法人プラシア〉



提供内容・コロナ禍前

利用料金：---

コロナ禍後の活動です。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：1家族 500円(含：家族風呂)

コロナ禍の中で「わむすび」の活動を開始しました。感染症対策を行いながら家族風呂・悩み相談・遊び活動・食事提供を行っています。

春から秋にかけては野外での食事や、水遊び・野外での遊びなど外での活動を行い、冬期間は室内での活動、野外での雪遊びとなります。

感染者が弘前市内で増えた場合はやむを得ず中止する場合や、お弁当配布に切り替える事や参加のキャンセルがありますが、できるだけ感染症対策を行いながら開催し親も子も楽しく遊んで話をして笑顔で帰宅してほしいと考え活動しています。

開催の様子

- ・活動支援費で室内用の鉄棒を購入したところ、学校でも練習していくできるようになったと逆上がりなど照れながらも見せてもらいました。
- ・利用している子同士でコロナ禍で数回会えないことが続いて久々に会えた時に「会えてうれしい」という声を掛けました。
- ・利用しているご家族に赤ちゃんが生まれ、久々に参加された際にお父さんが

ずっと抱っこしていたので当法人で以前使っていたベビーラックを貸し出したところ、泣くこともなくすっと眠ってくれ、「こんなにすっと眠ったの初めて！」「すごい！」と感激していました。今現在使う子もないので良ければご自宅で使いませんかと聞いたところ、その日お持ち帰りとなりました。現在も上のお子さんに揺らしてもらいながらお役に立っているようです。

応援して欲しいこと

広い場所、学校の協力。

運営者からのコメント

「子どもの居場所」「みんなの居場所」の研修会で「居場所」は様々な形があり、場所によって行う内容も違う事もわかりました。「わむすび」はしたいこと全て詰め込んでおり、現在は食事提供・居場所・遊び場・悩み相談・家族風呂・食材提供など様々な内容で行っています。食事に関しても手作りにはこだわらず、みんなでおいしいものを食べられたらいい

いと考え飲食店に食事提供をお願いする事も多いです。場所は広くないので参加できる人数も限られますが、時々話をしに来て子供たちも笑顔で笑って過ごせる場所になっていただけたらと考え「みんなの居場所わむすび」を行っています。

P
lusia

代表者：野呂 深雪

今後の展開

月曜から金曜日の日中に子供の遊び場、学校にいけない子の学習支援の場や日中過ごせる場所、おにぎり提供、生理用品配布、母と子の悩み相談所などの活動を行っていく予定です。

20 「みんなの食堂」おいでえーる

活動地域
弘前市

開催日：月2回（金曜または土曜、変動あり）

開催場所：千年交流センター

障害者支援施設千年園

運営団体：社会福祉法人千年会

連絡先：TEL 0172-87-4888

info@chitose-kai.or.jp

HP等：<http://www.chitose-kai.or.jp>

対象：市内（近隣市町村）にお住まいの方

実際の参加者：大人から子どもまで幅広く参加されています。



〈千年交流センター〉



郷土料理。おばあちゃん秘伝の「しとぎもち」作り。



遊びを取り入れた防災訓練。
早く火を消して！



本日のランチ
日替り炊込みごはん
鮭のじゃこ汁
柿のなます
(12月25日の)
ごはん

暖かい日差し、畳の匂い、
美味しいご飯とみんなの笑顔。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：---

当団体は令和2年8月より活動開始しているため、コロナ禍以後となっています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：200円。高校生以下、65歳以上、無料

地域での新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら実施しています。場合により中止等もあります。

新型コロナウイルスの感染拡大、長期化に伴い参加者の方の感染対策に対する意識も向上し、感染対策への協力ややむを得ずの中止にも理解をいただいているます。

開催の様子

おいでえーるでは、県産食材や季節の食材などを多く使用し、健康も意識したメニューの調理実習や共食を通じての食育活動を行っています。食育活動を通じて、地域活性化・地域共生社会の実現を目指に活動しています。

最近は、子どもたち（親子での）の参加も増え、楽しいデザート作りや郷土のお菓子作りなども行っています。クリスマスのイベントでは、1人1台のクリスマス

ケーキに思い思いのデコレーションを楽しみました。この他、ハロウィンや防災、収穫体験なども行いました。

また、毎回季節や食材、健康課題などのテーマを決め、調理実習の他、免疫力向上や食材に関するミニ講座、栄養相談や健康体操なども企画し、大人の方にも好評となっています。

応援して欲しいこと

一緒に活動してくれるボランティアを募集中です。

運営者からのコメント

「みんなの食堂」おいでえーるは、地域の子どもからお年寄りまで誰でも参加できる共食の場として、令和3年度は「弘前市市民参加型まちづくり1%システム」の採択を受け活動しています。

地域の皆様に栄養バランスに優れた食事の提供を通じて、健康的な食生活の支援や孤食の防止、食文化の伝承等地域における食育の推進を図るために活動してい

ます。「受け手から支え手へ食育を通じての地域の活性化・地域共生社会の実現」を目標に地域の人たちが地域で活躍できる活動になればと思います。

毎月2回千年交流センターにて開催していますので、お気軽にご参加ください。



代表者：小林 大眞

今後の展開

今後も、地域での新型コロナウイルスの感染状況を確認しながらとなりますが、毎月2回千年交流センターを会場に開催します。

活動地域
八戸市

21 まんまるカフェ

開催日：隔週の土曜日

運営団体：池田介護研究所

連絡先：TEL 0178-32-0097

H P 等：<https://www.facebook.com/ikedacarelab>

対象：誰でも

実際の参加者：地域の子ども達、デイサービス利用者。



提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

デイサービスが休みの土曜日に隔週で開催しています。子どもたちが自分で作って自分で食べる形です。

2～3ヶ月に1度行事イベントを実施し、農業や大学など色々なところとコラボしています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：---

コロナ禍のため現在は休止しています。

開催の様子

コロナ禍のため現在は休止中ですが、令和2年7月には屋外でBBQを開催しました。

午前中は農業体験をし、畑でじゃがいもを掘る、屋外遊びは人が入れるほど大きなシャボン玉を作るなどアクティブに体を動かしました。

昼はBBQで、子どもたちが自分で肉を焼くなど、体験機会を提供しています。

その日掘ったじゃがいもは、じゃがバ

ターにして試食。美味しい！と喜びの声が聞かれています。

親子での参加者の他に、大学生や高校生、地域のボランティアも参加しており、子どもたちが自分の力で出来なかつたことを見守りながら手助けすることで多世代交流を図りました。

食材は一部をフードバンクからの寄付、または購入しています。

応援して欲しいこと

現在は特にありません。

運営者からのコメント

「子ども食堂」は、貧困層のイメージが強くて、なかなか参加者が集まりませんでした。もっとざっくばらんに集まれる、「みんなの居場所」に移行していく必要があると感じました。

ご飯だけでなく、学びだつたり遊びだつたり、目的がある中で他人との交流やつながりが持てる形でやっていきたいです。

代表者：池田 右文

今後の展開

コロナ禍の状況を見て、落ち着いた頃に、やり方を変えて実施していきたいです。

22 ふれ愛・あおば食堂

活動地域
八戸市

開催日：年8回・基本的に第1土曜日

開催場所：八戸あおば高等学院

運営団体：特定非営利活動法人あおばの会

連絡先：TEL 0178-22-3470 / FAX 0178-22-3475

info@hachinohe-aoba.com

H P等：<https://hachinohe-aoba.com/>

対象：どなたでも参加可能

実際の参加者：高校生中心、10～20名程度



〈八戸あおば高等学院〉



おばさんたちに習いながら
野菜をカットしていきます。



焦げ付かないように
鍋をかき混ぜます。



画面奥のサンタさんにも
カレーをふるまい、
みんなでご飯を食べます。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：高校生まで無料、大人300円

高校生中心で10～20名程度の参加があります。

ご飯を食べたり談笑したり、自由に過ごします。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

子ども食堂は休止中です。

フリースペースあおばを居場所提供することと、「こども宅食おすそわけ便」を実施しています。

開催の様子

自分で作ったものを自分で食べて、片付けまで自分たちでする流れの中で、子どもたちの笑顔が見られています。普段、大人しく消極的な子が調理には積極的で手際がいいなど意外な一面がありました。

調理をツールに交流がスムーズになり、雑談や親の愚痴など笑い交じりに言うことで、お互いの理解が深まって仲良くなり、食堂の時間以外でも話すようになりました。

新たな人間関係だけでなく、旧知の仲も深まるなど、良い影響が見られています。

応援して欲しいこと

食材の提供や調理のボランティアを募集しています！

運営者からのコメント

普段の居場所がムリならここがあります！

普段の日常を変えてみませんか？？

今後の展開

新型コロナウイルスの状況を考慮して都度判断し開催していきます。



代表者：類家 順子

活動地域
八戸市

23 健康キャンパス！

開催日：不定期開催

開催場所：八戸市老人いこいの家 海浜荘

八戸市老人いこいの家 青山荘

八戸市立老人福祉センター 馬淵荘

運営団体：社会福祉法人みやぎ会

連絡先：八戸市大字河原木字八太郎山10-81

TEL 0178-51-2010 / FAX 0178-51-2011

H P等：<http://www.sg-miyagikai.jp/>

対象：いこいの家利用者、小学生



〈海浜荘〉



錦糸卵や胡瓜等の様々な具材を、混ぜご飯にトッピング！カラフルなカップ寿司を作りました！



にっこり笑顔の
クレープのできあがり！



フルーツを切ったり、クリームで盛り付け！集中しすぎてみんな無口に!?上手にクレープできたかな？

提供内容・コロナ禍前

健康キャンパス！利用料金：無料

調理実習、食事を伴った居場所の提供と子どもと高齢者が一緒に参加する健康教室を開催しています。

10人程度の定員で開催。

子どもたちが自分で作ることで「出来る」という自信がつき、また共食の美味しさを体感できとても楽しそうに活動しています。

提供内容・コロナ禍後

こども宅食利用料金：無料

「八戸こども宅食おすそわけ便」に参加しています。事前申込の方に食材・食料品の配付・配達。50世帯（会場40、配達10）を基本に開催しています。

親子で来場される方が多く、とても喜んでいただいています。

開催の様子

健康キャンパス！（子ども食堂）では、地域の食材を使用し季節を感じられるメニューを子どもたちと一緒に調理します。子どもたちは、「自分で作りたい」と意欲的であり、盛り付けも工夫して生き生きと楽しそうに活動しています。自宅でも作ってもらえるように、メニューと調理法の資料をお渡ししています。

地域の高齢者と一緒に健康教室では、世代間交流を通じて「子どもを地域で育

てる」ことへ繋げられるのではと考えています。

また、八戸こども宅食おすそわけ便では、親子で来場される方も多くとても喜んでいただき、「助かっている」「回数を増やして欲しい」などの声も聞こえています。

応援して欲しいこと

子ども達が通いやすく、継続して利用できる開催場所。

運営者からのコメント

現在、コロナ禍で子ども食堂は開催できず、こども宅食の活動をしながら、子ども食堂再開に向けて準備をしています。

子ども食堂を再開した時には、多くの子どもたちに参加して頂きたいです。

今後の展開

コロナウイルス感染症の状況をみながら、コロナ禍でも出来る子ども食堂の在り方を考え、早期に再開したいと思います。

担当者：片桐、久保、巴

24 ちょうじやこども食堂

活動地域
八戸市

開催日：月1回（いずれかの土曜日開催）

開催場所：八戸市立長者公民館

運営団体：NPO 法人ワーカーズコープ

連絡先：TEL 0178-51-8582 / FAX 0178-51-8583

choujakodomo@gmail.com

H P等：<http://choujakodomo.livedoor.blog/>

対象：どなたでも参加できます

実際の参加者：小学生・中学生が多く、1回あたり60名程度
が参加



大広間で、みんなで
ご飯を食べました。



「食育セミナー」では、
板前さんが出張して
巻き寿司を作ってくれました。



提供内容・コロナ禍前

利用料金：高校生以下無料、大人 300円

地域の方（10名程度）が中心となり、買出しや調理等を担当しています。

多い時には100名以上の参加者があり、子どもたちは配膳を手伝ったり、おしゃべりしたり、宿題をしたり、思い思いに過ごしています。そばには、騒いでいれば叱ってくれたり、食器の洗い方を教えてくれたり、優しく話を聞いてくれる大人がいて、食事だけではなく子どもたちにとって安心して楽しめる居場所となっています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

毎月1回小中学生を対象にした学習会とフードパントリーを実施しています。学習会では1時間勉強した後に、郷土かるた大会や紙飛行機飛ばし大会、ラダーゲッター、パソコン教室などお楽しみ（体験）の時間を1時間設けています。お昼には持ち帰り用のお弁当を配布。フードパントリーは、当初20世帯から始め、今では奇数月30世帯、偶数月60世帯に配布し、宅配も行っています。

開催の様子

開店前から多数の子どもたちが来訪します。食事が出来上がるまで宿題をしたりテーブルや食器を用意したり、顔見知りのボランティアさんを見つけて話し掛けたり自由に過ごします。食事をすることよりも、そうした交流を楽しみにしている子が多く、上の子が下の子の面倒を見ている様子は、最近ではあまり目にすることがなくなった大家族のようで微笑ましいです。

仕事後に子連れで来店したお母さんは、「夕飯の支度をしなくてもいいからすごく助かる。外での子どもの様子もわかるし、ママ友同士の情報交換も出来るし、こども食堂だと子ど

もが好き嫌いを言わず何でも食べるし、食べた後の食器の片付けもすすんでやっていてびっくりした。家でもやってほしい」と話しています。

お孫さん連れのおばあさんは、「孫が人見知りで…こういうところに一緒に来て、少しでもなれてくれたら。こんなにたくさんの子どもたちが集まっているのは久しぶりに見た。最近は近所でこどもを見かけてもどこの家の子だか分からなくなってるけど、ここで会ってるとどの子も自分の孫みたいな気になるね」と嬉しそうに話していました。

応援して欲しいこと

フードパントリーの宅配や袋詰め等を行うスタッフの数（マンパワー）が足りません。

運営者からのコメント

貧困に限定せず、誰でも参加できる「こども食堂」を始めて、集まる人はただ単に食事が目的ではなく、誰かと一緒にいる居場所を求めて来ていることに気づきました。コロナ禍で食事の提供は出来ませんが、子どもたちに学校でも家庭でもない第3の居場所として安心して来てもらえるよう「学習会」を始めました。

貧困家庭では塾に行くこ

とが難しく、勉強や、様々な体験の機会も少ないので学習会の中でいろいろな体験が出来る時間を設けています。また、地域の方にもご協力をお願いしています。生まれ育った環境に関係なく、すべての子どもに等しく体験の機会や選択肢が与えられるよう、社会全体で子どもを育てる地域づくりをしていきたいです。

代表者：俵山 悟

今後の展開

八戸市内でのコロナ感染拡大の影響により、学習会を中止することもあります。フードパントリーは配布場所、配布方法を変えて実施する方向で検討しています。

活動地域
八戸市

25 ふれあいカフェ 大久保の里

開催日：事前申込み制

毎月1回第2日曜 11:00～14:00

開催場所：大久保の里 地域交流ホール

運営団体：社会福祉法人 東幸会

連絡先：TEL 0178-38-7235 / FAX 0178-35-2003
tokoen@jomon.ne.jp

HP等：<https://s-tokokai.or.jp/>

対象：幼児からお年寄りまでどなたでも利用可。
就学前の子どもは要・保護者等の付き添い。

実際の参加者：1回 20～30名（含スタッフ）



〈大久保の里 地域交流ホール〉



焼きそばの調理実習。



卓球の横でまったりカフェ。



ジengaを身長より
高く積みました。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

スペースの関係で、20名程度で参加者人数に制限があります。

11時から調理実習で、食事のあと13時頃からは遊ぶ子供たちの横で、保護者向けに地域の相談会も実施しています。子どもたちがのびのびと暮らるために、保護者の不安を解消できるよう相談をつなげています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：---

現在休止中ですが、2か月に1回、こども宅食おすそわけ便の開催に参加しています。

開催の様子

メニューは焼きそば、カレー、お好み焼きと子どもたちが好むものを用意。調理実習に参加する際は、笑顔も見られましたが、みんな真剣で美味しいものを作ろう、食べようと集中して取り組んでいました。

食材は購入で、地域の方々から寄付金を頂き食材費の一部に充てています。

開催場所である交流ホールは平日開放しているため、放課後に寄って遊ぶ子も

います。地域の特色として高齢者が多く子どもが少ないため、時間帯で利用者の年齢層が変わります。

1月、8月の祭りの際には会場が外のため50人程度が参加できます。保護者や地域の高齢者、職員等がスタッフとして参加し、開催しています。

応援して欲しいこと

開催再開すれば、カメラタイプの非接触型体温計。

運営者からのコメント

地域の困りごとが見えていなかったのですが、みんなの居場所を始めたことで、まずは子どもたちが集まってくれるようになりました。

東幸会がここにあってお話を聞けるよ、という体制でいることを知ってもらい、入り口としてつながなっていけたらと考えています。

自転車で転んだ子供が「あそこまで行けば」と助けを求めてくれたこともあります。

した。

地域の人たちに親しまれて、もっと気軽に活用してもらえたなら嬉しいです。



代表：伊藤 友子

今後の展開

ワクチン接種等、コロナ感染状況が落ち着いてから状況を見て開催します。

活動地域
八戸市

26 みんなの森のはらキッズ 夕暮れcafe

開催日：月1回（不定期）

開催場所：みんなの森のはらキッズ

運営団体：学校法人鳳明学園みんなの森のはらキッズ

連絡先：八戸市西白山台4-4-4

TEL 0178-51-8266 / FAX 0178-51-8267

noharakids@road.ocn.ne.jp

対象：小学生以下の親子

実際の参加者：1回15組限定



オープンカフェで
さわやかな晩御飯。



ワクワク感の増す
夜のスイカ割り。



クリスマスにはサンタさん
からプレゼントがあります。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：内容により変動あり

小学生以下の親子を対象に、1回につき15組限定で手作りの食事を提供しています。

季節にちなんだイベントを企画し、毎月のお楽しみにして頂いています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

手作りのお弁当を限定数ありで配布しています。配布でも喜ばれているので、続けて企画したいです。

こども宅食おそそわけ便の開催もし、コロナの状況をみながら配布の仕方を工夫して参加していただいたらと思います。

開催の様子

コロナ対策をしながら季節ごとのイベント感も大切にし、子どもたちがワクワクするような体験イベントに取り組んでいます。

ハロウィンパーティーの際には、保護者の方も仮装して来て下さったり、クリスマスのイベントにはサンタさんの登場でプレゼントに見立てたデザートを配る等させて頂いています。

小学生向けの居場所事業として活動し

ている『Junior Job Staff (保育士体験ボランティア)』では、小学生が保育士体験をすることができます。将来について考えるきっかけになったり、自分の幼少期の頃の思い出と重ねたり、先生目線で考える場面があったりし、参加者だけでなく、職員共に楽しみにしている活動の一つです。

応援して欲しいこと

配布できるような日持ちする食材。弁当の容器やカトラリーセット。

運営者からのコメント

コンセプトは『みんなが“家族”になる場所』です。

私たちは、ここを訪れたすべての皆様が世代をこえてみんながHappyで笑顔になり、大きな『家族』のように温かい関係になれるような居心地の良い居場所になることを目指して、私たち自身も一緒に楽しみながら、今後も様々な企画をしていきたいと思っております。



代表者：田頭 初美

今後の展開

市内の感染の様子をみながら、こども宅食おそそわけ便、お弁当配布などで少しでも活動をしていきたいです。

活動地域
八戸市

27 離乳食教室「ふるふる」

開催日：毎月1回（第4土曜日）

開催場所：みんなの森のはらキッズ 他

運営団体：八戸学院大学 人間健康学科 佐藤千恵子ゼミナール

連絡先：031-0844 八戸市美保野13-98

chisato@hachinohe-u.ac.jp

対象：満5ヶ月～満18ヶ月児の親子対象（10組限定）

実際の参加者：満7ヶ月児の親子が多い



親子で楽しいベビービクス。



手作り離乳食の試食会。

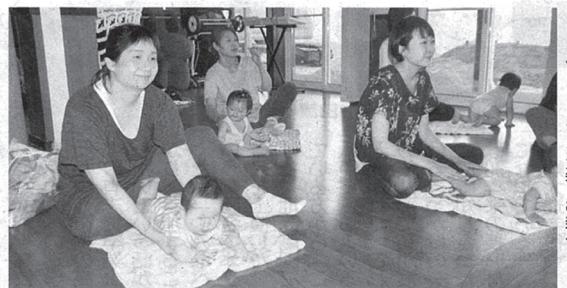
2019.6.22
デーリー東北新聞掲載

広がれ！ママ友の輪

離乳食に対する知識や育児中の母親同士の交流を深めるイベント「ふるふる」が22日、八戸市西白山台4丁目の企業主導型保育施設「みんなの森のはらキッズ」で開かれた。市内の親子がベビービクスや手遊びをするなどして楽しみながら“ママ友”的な輪を広げた。

イベントは産後の体の変化や生活での不安など、育児に悩む母親をサポートするのが大きな狙いで、「子ども食堂推進プロジェクトin八戸」（佐藤千恵子代表）の主催。対象

子育て教室に親子9組



ベビービクスを楽しむ親子

は2歳未満の乳幼児とその母親で、市内の親子9組が参加した。赤ちゃんの体を優しくマッサージするベビービクスは、市内のインストラクター武部貴子さんが指導。長女と

参加した大高圭さん（35）は「ママ同士のつながりができるのでうれしい。ベビービクスは自宅でもやってみたい」と笑顔で話した。

（須田山裕太）

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

事前予約制を活かして、その時の参加者の月齢に合わせた離乳食を紹介しています。大人の献立から取り分けて作ることを基本に、一緒に作って食べます。但し、実習は希望者のみです。

レシピ片手に見学するだけでも、一人で作れる内容を心がけています。完成するまでの間にベビービクスや助産師の講話もあります。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

コロナ禍のためお休みしています。

開催の様子

子育ての悩み相談窓口は、自治体をはじめとして民間にもたくさんありますが、離乳食に関しては実際に一緒に作って食べる所はなかなかないのが現状です。

最近では YouTube などを活用した動画サイトもありますが、乳幼児をもつ産婦にとってはそれを視聴する時間もないくらい慌ただしい毎日です。その上動画では実際の固さ、味、量も自分の子に適当かどうかの判断ができません。

特に初産の人にとっては疑問ばかりで気軽に聞く人がいないというのが実状らしく、その悩みをその場で解消することができる点が好評でした。

現代の子育ては孤独でワンオペや密室孤育てになりやすく、虐待にも繋がりやすいため、この活動が継続できるよう努めています。

応援して欲しいこと

子育てを経験したママたちにスタッフの一員としてボランティア活動していただきたいです。

運営者からのコメント

周囲に誰も頼る人がいなくとも、地域と繋がりをもつて、明るく楽しい子育てができるよう応援しましょう！

今後の展開

コロナ禍の現状を見据えながら、オンラインや Twitter を活用しながら再開したいと考えています。

八戸学院大学 人間健康学科
佐藤千恵子ゼミナール

代表者：佐藤千恵子

活動地域
黒石市

28 みんなの勉強室・食堂～くらら～

開催日：月2回（第2・4土曜日）

開催場所：黒石市元町7（旧佐藤酒造）

運営団体：NPO 法人元酒蔵の歴史的建造物を
保存・活用する会

連絡先：TEL / FAX 0172-53-0817

対象：市内の小・中学生

実際の参加者：全員小学生、毎回20名前後



～くらら～（旧佐藤酒造 初駒）



旬の野菜をもりもり。



金魚ねぶたの
絵付けをしています。



大学生と一緒に
勉強も頑張ります。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

自分で勉強できる居場所の提供をしています。弘前大学ボランティアセンターの大学生とも交流し、学習支援を行っています。

また、農作業や工作など、家にいては難しいような体験機会もあり、居場所だけでなく子どもたちの可能性を広げる場としても活用されています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

サービス提供内容は変わらず、子ども達の元気な様子にも変わりはないです。

開催の様子

実りの時期には参加者全員で裏の畠のさつまいも堀りをしました。

子どもたちの他に学生ボランティアやスタッフ等大人も加わって猫の小さな額ほどの畝に植えた10本の芋づるを握る手に力を込めて「えいっ」と引きました。つるは1本の苗に4～5本出ています。あちこちで尻餅をつく子、掛け声が誰よりも大きくて小さな芋を掘り当てた子、友達と一緒に黙々と掘って掘って、つい

に子どもの頭ほどのさつまいもを掘り当てて大喜びする姿が印象的でした。

たくさんの幸せが詰まった猫の額ほどの畠。狭い畝に深い喜びが埋まっていたようです。

大人はみんな、喜びの瞬間をとらえようと、カメラにおさめました。

応援して欲しいこと

食材の内、生鮮食品（肉、魚介類、季節の果物）などが、たりていません。

運営者からのコメント

自学自習を基本にしています。参加者の皆さん部屋に入るなり学習したい課題をすぐ始めています。学習意欲がすごく高いです。

裏にある畠を活用して農作業体験を充実させたいと思っています。

旬の野菜を美味しく食べたり、季節の行事を楽しむイベントを企画しています。

今後の展開

これまでと同様、学習支援と食事提供を行っていきます。

代表者：庄司 恵雄



活動地域
五所川原市

29 憩いの広場ここまる

開催日：毎月第4日曜日

開催場所：コミュニティセンター栄、浄土宗 専念寺

運営団体：チームなないろ

連絡先：つがる市柏玉水藤岡5-32

TEL 090-4630-0340

koara0717@gmail.com

H P等：Instagram : nanairo.kokomaru

facebook : 憩いの広場『ここまる』

対象：制限なし、どなたでも可

実際の参加者：親子連れが多い



〈Community Center Eiga〉



プラ板で工作しています。



多くの親子連れ、友達同士が集まって、自由に遊んでいます。



縄文土偶をオリジナルの絵柄にするアイシングクッキーの体験。

提供内容・コロナ禍前

**利用料金：高校生以下・65歳以上
無料、大人300円**

事前予約なしで利用可能。

食事を伴った居場所の提供、自由遊び、夏休みにはお寺での肝試しなどイベントも開催しています。

長期休暇の際には、学習支援も実施しています。

高校生がボランティアで協力してくれたり、民生委員が調理を担当など、地域に根差して活動しています。

提供内容・コロナ禍後

**利用料金：高校生以下・65歳以上
無料、大人300円**

感染予防のため事前予約制。

コロナの感染者数を見ながら、食事提供または弁当持参、食事なしの居場所の提供、居場所の提供が難しい場合は、食料品や日用品などの無料配布など対応しています。

寄贈されたお菓子・果物・日用品などのミニパントリーも実施しています。

開催の様子

コロナ禍になってからも開催場所が確保できる限り、定期開催を続けています。

ボランティアスタッフが玩具の持ち込みをしたり、プラ板、アイシングクッキーづくりを用意したり、居場所とともに体験機会の提供も実施しています。

コロナ禍では新しい参加者も増え、以前からの参加者も継続して利用しているので、人数は増えました。

五所川原農業高校から協力の申し出が

あり、りんごもぎやジャムづくりなどイベントメニューを増やせそうです。お寺での肝試しも継続の予定です。

利用する子どもたちには笑顔があふれ、保護者もリラックスした様子で談話していました。高校生ボランティアからは「自粛ばかりでストレスが溜まるが、ここで子どもたちと遊ぶと気持ちがさっぱりする」と聞かれています。

応援して欲しいこと

感染予防のための、食事の際の仕切り。

運営者からのコメント

自分自身が五所川原の出身ではないので、初めての子育てに頼れる友達もなく、孤独でプレッシャーでした。

自分のための居場所が欲しいと感じていた時に、「子ども食堂」という活動を知り、始めてみると共に困り感を抱え、地域をよくしていきたいという思いを持ったメンバーが集まり、様々な協力者とながることができました。

このつながりを地域への恩返しとして、これからも継続していきたいです。

また、これから来てみたい人、開催したい人には、不安はあるかもしれません、とりあえず一歩踏み出して欲しいです。走り出したらつながっていくので、挑戦してみてください。

代表者：川村 沙織

今後の展開

今は月1回、五所川原市で開催していますが、来年度からはつがる市で月1回夕方、食事提供することで、保護者の支援にもつなげていきたいです。

30 いとか学園 こども食堂

活動地域
五所川原市

開催日：月1回、いずれかの土曜日

開催場所：いとか学園

運営団体：五所川原システム合同会社 放課後児童クラブ

連絡先：TEL 0173-26-5137

itokagakuen@gmail.com

H P等：<https://www.itokagakuen.com/>

対象：地域の親子

実際の参加者：放課後児童クラブの学童が多い。

1回あたり40名程度。



〈いとか学園〉

自分たちで調べて
発表する「食育」。
勉強した旬の食材
は「巻きみ」。



勉強した食材を使ったお昼ご飯を
みんなで食べます。



ご飯が美味しいくて
思わず笑顔に。



提供内容・コロナ禍前

利用料金：子ども無料、
大人300円

放課後児童を利用する子どもや、地域の高齢者、また幼稚園等から団体で参加することもありました。
園で作った食事の提供をしています。

遠州流茶道の体験や季節イベント、団体遊戯、体を動かす遊びなども実施していました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：子ども無料、
大人300円

感染予防のため集団遊びをやめ、食の知識発表会を実施し、自発的にやりたい子を毎月募り、テーマ毎の食育を学び、発表することで深く学びます。

発表したその月のテーマの旬食材を使った食事の提供をしています。
現在の参加者はほぼ放課後児童を利用する児童、地域の親子です。

開催の様子

食の発表会があり、食育にまつわるクイズをし、担当した子どもだけでなく発表会に参加した子ども全員で学んだことを復習します。

最初は指導員が発表していましたが、高学年の子どもたちが担当し、その姿を見て低学年の子どもたちからもやりたいと自発的に希望がありました。

その後、昼食を摂り、お茶室にて茶道の体験をします。こちらも季節の行事の

お話を聞きながら、茶道におけるお菓子の食べ方、抹茶の飲み方を学ぶ、体験機会の提供を実施しています。

お茶室が狭いので、少人数入れ替え制で体験します。

子どもたちは3つの小学校区から通っており、コロナの影響による萎縮等は見られていません。

物怖じしない様子で、通りすがる大人にも元気にあいさつをしていました。

応援して欲しいこと

コロナの感染状況が収まったら、地域の方との交流がしたいです。

運営者からのコメント

やりたいと思っていたところに、市からお話をあり、それではと始めました。補助等もなく自力で開催のため厳しいですが、たくさんの協力もあり続けられています。

地域の力で行政を巻き込んで開催出来たら素晴らしいです。

親子が来やすい、大人も友達同士で参加しやすい場所を目指して活動している

ので、ぜひ遊びに来てください。

代表者：水島 康雄

今後の展開

このまますっと、継続していきたいです。

活動地域
全市町村

31 十和田こども食堂バス・フードパントリー笑輪

開催日：月2回以上

開催場所：十和田市他青森県全市町村

運営団体：十和田こども食堂実行委員会

連絡先：TEL 0176-27-1815

mizushiri.kazuyuki@gmail.com

H P等：<https://towada-kodomoshokudou.jp/>

対象：中学生以下の子供がいる世帯



活動の様子。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

- ・1回につき約80名の参加
- ・中学生以下の子どもがいる家庭が主に参加していました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

- ・利用人数は増加しています。
- ・ひとり親世帯の利用者が増加しました。

開催の様子

① 2019年8月に初めての野外でのこども食堂を実施し、親子約80名に参加していただきました。

流しそうめんを実施し、初めての流しそうめんでうまくつかめない子が多数いましたが、皆さんとても楽しみながらお昼のひと時を過ごしてもらいました。

② 2020年5月からこども食堂バスで青森県各地を訪問ましたが、こども食堂のテイクアウト事業開催時、「バスが好きなので是非バスの中で食べたい」という子がいて、親子でバス内での食事を楽しんでいて、その後に本棚にある絵本を手にとって楽しそうにしていたのが印象的でした。

応援して欲しいこと

事務局運営費の増強が必要です。

運営者からのコメント

こども食堂やフードパントリーを実施して学んだこと、感じたこと。

●コロナ禍でも柔軟に対応できる、こども食堂やフードパントリーなどの居場所づくりが必要であると感じました。

●こども食堂やフードパントリーは毎月実施し、誰もが利用しやすい無料配布が良いと感じました。

●フードパントリー事業では米の配布が特に喜ばれました。

●メンバーやボランティアさんにはあまり負担をかけない支援事業の計画が必要だと感じました。

●こども食堂・フードパントリーの開催はフードロスしないように予約式にした方が良いと感じました。

●SNSでの募集のお知らせや報告は出来る限り発信した方が良いと感じました。

●少しでも手作り感のある「食」の提供や設えをした方が良いと感じました。

代表者：水尻 和幸

今後の展開

こども食堂バスを活用し、全市町村でのこども食堂を開催したいです。

青森県全体のこども食堂の普及率・増加率を向上させたいです。

32 ファミリープラザ まるめろ食堂

活動地域
むつ市

開催日：月1回 毎月最終土曜日

開催場所：特別養護老人ホーム金谷みちのく荘内 地域交流ホール

運営団体：社会福祉法人 青森社会福祉振興団

連絡先：TEL 0175-23-1600

marumelo@michinokuso.or.jp

H P等：<https://www.michinokuso.jp>

対象：子どもから高齢者まで

高校生以下は無料

実際の参加者：ご家族での参加が多い。

子どもだけや高校生のボランティアなど大歓迎。



食事風景
密を避けて座ってもらいます。



ブロックなど自分の
好きな物で遊びます。



みんなでおやつを
作ったりします。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：高校生以下無料、付添の保護者は300円

食堂でみんな揃ってご飯を食べていました。

ボランティアの方にスープを盛ってもらったり、食器を洗ってもらったり、配膳のお手伝いをしていただきました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：高校生以下無料、付添の保護者は300円

配膳のスタイルをお弁当形式に変え、容器を使い捨てにして感染症対応をしています。

また、市内での蔓延状況により、開催を中止する場合もあります。

可能なときには、外でお弁当を配布するなど、工夫を凝らしながら開催していきます。

開催の様子

ご家族での来場が多いです。12時に来て、受付で検温チェックや健康観察を行います。その後お弁当を食べて、子どもたちは元気に遊びます。

好きなおもちゃで遊ぶ子どもも、ボランティアの方と体を動かして遊ぶ子どもなど様々です。

お弁当は、当法人の栄養士が献立を決めています。季節のイベントなどを意識して楽しいお弁当を作ります。普段は野

菜を食べない子どもも「まるめろ食堂」では食べてくれます。

開催の月によっては、みんなでおやつを作ったり、夏祭りとしてかき氷やヨーヨー釣り、射的なども行います。特にスイカ割りは、みんなが「やりたい！やりたい！」と大人気。なかなかスイカが割れずに、思いっきり叩くとスイカではなく地面を叩いて棒が折れる！というハプニングもありました。

応援して欲しいこと

高校生ボランティアを募集中です。

受付や子どもと遊ぶなど、いろんなことをやっていただきます。

今後の展開

子どもから高齢者まで、幅広い年代が集まる場所にしたいです。

地域の伝統的な遊びなど、今の子どもが体験できないことをやっていきたいです。

運営者からのコメント

社会福祉法人として地域に貢献できる活動はなにかないかと思い、社会貢献事業の一環として、むつ下北地域初の「子ども食堂」を始めました。

人と人のつながりが薄くなっている時代。「子ども食堂」と銘打っていますが、老若男女問わず世代を超えて集える場所として、地域の皆さんに有意義に活用していただきたいです。むつ

下北地域の地域活性化に貢献したいと思っています。

代表者：中山 辰巳

活動地域
むつ市

33 まるっと。

開催日：小学生 月2回土曜日

中学生 月2回水曜日

開催場所：よしのこども園

運営団体：社会福祉法人桜木会よしのこども園

連絡先：TEL 0175-22-4015 / FAX 0175-22-4017

対象：2小、苦生小1～6年生

田名部中学校1～3年生

実際の参加者：1回あたり10人前後



〈よしのこども園〉



ZOOMを使って大学生に
勉強を教わっています。



感染対策をきちんとしながら
ご飯を食べます。



外でのびのび遊んでいます。



地元の高校生が来ています。
勉強の他に、おしゃべりもします。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：---

コロナ禍の後に始めた活動です。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

定期開催しています。

こども園の卒園生や、近所の小学生を対象に、お昼ごはんの提供を伴った学習支援会を実施しています。

地元の高校生ボランティアが来たり、弘前大学ボランティアセンターの大学生とZOOMで会話したり、勉強を教えてもらっています。

開催の様子

一人で「まるっと。」に参加していた小学生の男の子同士が、回を重ねる毎に仲良くなり、今では大の親友になっています。お互い最初は、心配そうな顔をして出席していましたが、今はお互いの顔を見つけて、笑顔で駆け寄っていく姿を見ていると、開催しているこちらも嬉しくなります。

ボランティアで参加する高校生ともすっかり顔なじみになって、世代の違う

お友達ができました。

小、中、高と世代の違う子どもたちが交流し、勉強だけではない経験をしています。

応援して欲しいこと

物の足りなさはありませんが、近隣等の感染状況を踏まえて、開催するべきか否かの判断が難しく困っています。

今後の展開

昨年度、県の委託事業で近隣の小学生対象の「まるっと。」が始まり、今年度は小学生の他に中学生の学習支援も始めました。このままゆるく長く、開催していきたいです。

運営者からのコメント

小学生の皆さん、よしのこども園でお昼ご飯を食べ、お腹がいっぱいになったら、勉強をしませんか？休憩時間には園の屋上でリフレッシュ!! 保護者の方やお子さんの悩み相談もお気軽に。そんな土曜日のひとときを、よしので「まるっと。」過ごしましょう。

中学生の皆さん、zoomを使ったオンライン学習会に参加しませんか？弘前大

学のボランティアの学生が、宿題やテストの分からない所をお手伝いしてくれます。気軽に参加して下さい。軽食も付きますよ♪

代表者：真手 めぐみ

活動地域
つがる市

34 館岡こども広場 JOMON

開催日：通常は月1回、現在はコロナ禍のため

1～2ヶ月に1回の不定期開催

開催場所：館岡保育園施設内

運営団体：社会福祉法人護心会

連絡先：TEL 0173-45-3520

対象：参加希望者全員

実際の参加者：25人～30人程度

無料英会話希望の学生3割、高齢者数名、

その他児童及びその保護者



活動の様子。



提供内容・コロナ禍前

利用料金：高校生以下無料、
他 300 円

1回で25～30人の参加で、沢山の会話があり、距離感も近く皆和気藹々としていました。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：高校生以下無料、
他 300 円

1回で15～20人の参加で、マスク着用や消毒だけでなく、ソーシャルディスタンスやパーソナルディスタンスをとる様になり、コロナ前と比べて会話が激減しました。

開催の様子

①残り1本となったウインナーをとある姉妹が取り合っていた際、仲良く半分にして食べたらどうかと伝えたところ、まだ4歳の姉が「お姉ちゃんだから全部あげる」と妹にあげていて参加した親御さんと一緒になんなく暖かい気持ちになりました。

②兄弟で参加した児童ですが、好き嫌いが激しいらしくブロックリーを残していたところ、仲良しの子が「僕が食べてあげる」と言って箸をのばした際、「僕のブロックリー」と呼び結局自分で食べてしまい、その後その子は家庭でもブロックリーを残さず食べるようになったと聞き、思わず笑ってしまいました。

応援して欲しいこと

今のところは特にありませんが、今後の新型コロナウイルスの流行具合によっては、マスク及び消毒液等が更に必要となる見込みです。

家庭もあり難しいところです。また、直接の触れ合いを求める家庭や個人も多く、今後とも新型コロナウイルスの流行具合を注視し、需要に応じて柔軟に開催していく予定です。

の保護者、一人暮らしのおじいちゃん、おばあちゃんなど、年齢や性別に関係なく、皆が集まり色々な経験や情報を交換し、地域において孤独を感じる事無く充実した日々を送っていけるわずかな手助けにでもなればと思います。

今後の展開

新型コロナウイルス流行に伴い、学習支援等をリモートにする事などを検討中ですが、PCを所持していない

運営者からのコメント

過疎化によって人口減少が著しいこの地域に住む人たちの為、何か皆で繋がる事ができないかという想からでした。こども達やそ



代表者：工藤 俊堂

35 地域共生サロン みんなのやど

活動地域
中泊町

開催日：毎週月曜日 13:00～14:30

開催場所：薄市福祉会館 / 内潟公民館

運営団体：社会福祉法人 内潟療護園

連絡先：中泊町大字田茂木字若宮 1933 内潟療護園

相談センター / デイサービスセンター

TEL 0173-58-3182 / FAX 0173-69-3315

HP等：<http://uchigata.or.jp/>

対象：どなたでも可

実際の参加者：70～90代の高齢者が多く、

毎回 10～15名程度の参加あり



〈薄市福祉会館〉



千羽鶴を一人一つ。



介護予防体操を
楽しみながらやっています。



みんなで鶴を折ります。

提供内容 コロナ禍前

利用料金：無料

13:00～15:00

利用毎に水分補給用の缶ジュースを一人ずつ提供。

ゲーム大会や定期的なバス遠足での買い物・外食を設けながら、体操や手作業での作品作りを行っていました。食事会では、参加者が作ってくれた料理を会館でいただくスタイルです。食材は参加者が畠でとれたものを持ち寄り、一部を法人で購入し提供しました。

初年度（令和元年）は、地区の保育園に作品を依頼してサロン参加者に一人ずつコメントをつけてもらい法人の祭りに展示し、お礼にお菓子を届ける交流イベントを企画しました。また、手作業で作品を作って町の文化祭へも参加しました。

提供内容 コロナ禍後

利用料金：無料

13:00～14:30

利用毎に水分補給用の缶ジュースを一人ずつ提供。

手作業での作品作りが多くなり、バス遠足では食事をせず買い物のみで戻っています。

再開当初は声掛けへの反応が乏しく、以前のような活気は見られませんでしたが、回を重ねるにつれ、少しずつ活気が戻ってきています。しかし、全員マスク着用なので参加者は少し動くと“息がまたは胸が”苦しい“や“こくて（疲れる）”と訴える方が複数出るため、体を使うゲームや体操の頻度が落ちました。特に雪が降って以降は、換気のためドアを開けることも利用者が好まず、職員が居る時間は作業に集中し、終わってからの自由時間におしゃべりを楽しんでもらう等、感染対策に配慮しています。使用している部屋はコロナ前と同じ時間帯で借りているため、残りの時間は各自の責任で交流を楽しめています。

応援して欲しいこと

若い方に興味をもって参加して欲しいです。

今後の展開

今後も週1回の活動を続け、コロナが落ち着いたら飲食を提供できるようにしたいです。また地域の祭り等にも積極的に参加したいです。

運営者からのコメント

地域の老人クラブが集まる場所を探していますが、管理の関係で会館などを借りられないとのことだったので、集まり交流する場所の提供を始めたことがきっかけでした。

参加に年齢を設定していないのでどなたでも気楽に遊びに来てもらえば良いと思っています。

代表者：野上 一幸



活動地域
東北町

36 テクセン子どものひろば てくのろくんち

開催日：概ね月1回（土曜日）

開催場所：青森原燃テクノロジーセンター

運営団体：株式会社青森原燃テクノロジーセンター

連絡先：TEL 0175-63-4680 / FAX 0175-63-4681

HP等：<http://www.agtcinc.co.jp>

対象：東北町近隣の小学1年生～6年生

（保護者の参加も可能）

実際の参加者：各回15名程度で低学年（1～3年生）が多い



〈青森原燃
テクノロジーセンター〉



ペットボトルロケットを作っています。

工作の後の
お子様ランチが美味しい！



グラウンドでゲーム。
いっぱいプレイします。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：---

コロナ禍後の活動です。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料、大人200円

ペットボトルロケットを作ったり、グラウンドを走り回るような体を使った遊びをするなどワークショップと、食事を伴った居場所を開催しています。

科学に対する興味や、他人と一緒に達成する喜びを学ぶなど、普段とは少し違う楽しみを提供しています。

開催の様子

コロナ禍の中、規模を縮小し感染対策を行った上で開催でしたが、子どもたちはイベントを待ちわびていたようで、とても楽しそうに遊んでいました。

第1回目のペットボトルロケット製作では、お友達同士で出来ないところを助け合う姿や、高学年の子が小さい子の面倒を見てあげる姿も見られ、子どもたちの仲の良い姿に一緒に参加した親御さんや当社スタッフの顔も綻んでいました。



応援して欲しいこと

特にありません。

運営者からのコメント

当社では、課題のある家庭が増加する中、子どもが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境を提供することで、少しでも子どもたちの成長に役立てられるよう、2021年度より「子どもの居場所」づくりに取り組んできました。実際に活動をしてみると、主催する我々自身も、屈託がなく素直で元気な子どもたちに接し、一緒に楽しむことで、

活力が沸き、仕事や日常生活を頑張ろうという気持ちになれるシナジー効果を感じておりますので、この効果を地域に拡大できるよう、今後は地域の高齢者の方々も交えた多世代間交流ができる地域のコミュニティを目指していきたいと考えております。

代表者 星野 剛

今後の展開

チェーンソーアートや餅つき、スポーツチャンバラなど、楽しいイベントを企画しています。

感染状況に合わせながら開催していきます。

活動地域
五戸町

37 特別養護老人ホーム素心苑 喫茶 おひさま

開催日：月2回（不定期）

開催場所：特別養護老人ホーム素心苑

運営団体：社会福祉法人 素心の会

連絡先：三戸郡五戸町字古館 10-1

TEL 0178-51-8188 / FAX 0178-51-8132

info@soshinnokai.or.jp

HP等：<http://soshin-en.com/>

対象：素心苑入居者等、地域住民

実際の参加者：高齢者が多く、1回当たり20人程度



〈特別養護老人ホーム素心苑〉



提供内容・コロナ禍前

利用料金：飲食代実費

高齢者施設なので参加者は主に入居者ですが、地域の住民も多く参加しています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：---

現在休止中です。
コロナの感染状況が落ち着き次第、再開します。

開催の様子

地域密着型の高齢者施設で、普通の暮らしを大事にしています。入居者も地域の住民と考え、地域住民との交流のために始めました。

食事は施設で提供していますが、地域の婦人会がウェイトレスとして協力してくれており、「チラシを見たよ」など口コミで参加者が徐々に増加していました。

入居者の楽しみの一つであり、交流が地域の方々の楽しみにもなっているので、

参加するみんなが喜べる居場所づくりをしていきたいです。

応援して欲しいこと

開催場所までの交通手段が少ないので、送迎などを考えたいです。

運営者からのコメント

こういった居場所を必要と感じている人がいます。その方たちのために何ができるのか考えてみて、仲間を作つて始めれば、最初に想像していたものと違つても何かができます。

まずは始めてみてください。
そして、まだ来たことがない方は、ぜひ気楽に、くつろぎに来てください。

今後の展開

コロナの感染状況が落ち着き次第、再開したいです。

代表者：大西 一男

活動地域
階上町

38 ばばちゃカフェ

開催日：毎月下旬（平日3日間・不定期）

開催場所：特別養護老人ホーム見心園

運営団体：見心園デイサービスセンター

連絡先：階上町赤保内字道仏道添21-12

TEL 0178-88-3355 / FAX 0178-88-3442

kenshin-en-jimu2@galaxy.ocn.ne.jp

HP等：<https://www.kenshin-en.jp/index.html>

対象：見心園の利用者、職員、部外者

実際の参加者：1日当たり、利用者約40名、

職員約20名、部外者5名



〈特別養護老人ホーム見心園〉



職員にも好評の
ばばちゃんの手作りおやつ。



開催のチラシ。アットホーム
な様子が伝わります。



軽食の他に、コーヒーなど
ドリンクもばばちゃんたちが
淹れてくれます。

提供内容・コロナ禍前

利用料金：無料

園内ホールにて月1回、平日に3日間かけて開催しています。カフェを切り盛りする利用者の顔ぶれが曜日によって変わります。

家では反応が薄くても、カフェに参加する際は生き生きとカフェの切り盛りをします。ばばちゃんメンバー同士の仲も良く、職員との会話も増えています。

提供内容・コロナ禍後

利用料金：無料

コロナ感染対策のため規模を小さくし、開催日も2日間に変更し、デイサービス利用者と職員だけで参加しています。

メニュー等の内容は変わらず、利用者の馴染み深い和菓子や軽食など、または利用者の畠で採れたじゃがいもを使ったスープなど、食べやすく作りやすいものを用意しています。

開催の様子

本来はデイサービス利用者のリハビリのために始めました。

利用者も入居者も、もともと近隣住民であったため、カフェを開催し交流ができると互いに顔を見て笑顔になり、会話が弾んでいました。利用者、入居者のご家族も招待し、範囲としては小さいが穏やかで密な人間関係、安心感のある場所を提供できています。

提供するメニューは、デイサービス利

用者の出来る範囲の調理法を作業療法士が見極め、利用者になじみ深いものを提案しています。職員に手伝ってもらいながら利用者が作ります。達成感や、「お客様」からの労いや美味しいの声に、やりがいを感じ、良い刺激になっています。

応援して欲しいこと

コロナ後、地域に開放した際に参加者の人数によって変わると思います。

運営者からのコメント

高齢者施設のため、入居などすると地域と分断されがちですが、もともとは近隣に住んでいた人たちです。ばばちゃんカフェを通じてコミュニティの力を取り戻すことができています。

カフェが地域に生きる人間の交流の場として機能しているのは、とても嬉しいことです。

あまり大きく開催しているわけではありませんが、

今ある関係性を大事にして、誰かと関わる楽しい時間を過ごしてもらいたいです。

代表者：坂本 美洋

今後の展開

コロナが落ち着いた後、地域にPRし開かれたカフェにしていきたいです。

3 「こども食堂」を中心に… 「子どもの居場所」開設マニュアル（18のQ&A）

（青森県社会福祉協議会作成）

Q 1 「こども食堂」は自由に作っていいの？

A 1 「こども食堂」は制度でも登録されている名前でもないので、自由に作ることができます。

一般的に「こども食堂」とは、地域のボランティアが子どもたちに対し、無料又は安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する取組（子どもに限らず、その他の地域住民を含めて対象とする取組を含む。）をいいます。



Q 2 名前は自由に決めていいの？「子ども食堂」？「こども食堂」？

A 2 ネーミングは開設する方々などで自由に決めてよいものです。

高齢者や普通の住民も対象のところでは「こども」という表現 자체を使っていないあたり、「食堂」という表現がない場合もあります。

Q 3 「こども食堂」は私にもできるのでしょうか？

A 3 作ろうと思う気持ちがあれば、誰でもできます。

始めたいなと思ったら、こんなことから始めてみたらいかがでしょうか。

- ・一緒に始める仲間を探す。
 - ・夢の「こども食堂」を描いて語り合う。
 - ・実際の「こども食堂」に行ってみる。
 - ・地元の社会福祉協議会などに相談してみる。
- ★とりあえず、やってみる。

Q 4 まずは、何から始めたらいののでしょうか？

A 4 こども食堂を始めたいと思ったら、まず次のことを決めていきましょう。

- | | | | |
|----------|-------------|-----------|-------------|
| ・開催する場所 | ⇒ Q5 へ | ・食事のメニュー | ⇒ Q13・Q14 へ |
| ・参加の対象 | ⇒ Q6・Q7 へ | ・保険 | ⇒ Q15 へ |
| ・周知の方法 | ⇒ Q8 へ | ・プログラム | ⇒ Q16 へ |
| ・実施の頻度 | ⇒ Q9 へ | ・衛生管理 | ⇒ Q17 へ |
| ・料金の設定 | ⇒ Q10・Q11 へ | ・いつから始めるか | ⇒ Q18 へ |
| ・運営のスタッフ | ⇒ Q12 へ | | |



Q 5 どこで開催したらよいのでしょうか？

A 5 いろんな場所で開催されています。

- ・公共の建物（公民館・集会所）
無料でなくても使用料は安価。
調理室があるところも多い。
- ・社会福祉施設
デイサービスなどは夕方以降空いている。
調理できる場所がある。交流スペースがある場合も。
- ・飲食店
定休日や閉店後に利用など。



Q 6 参加者は事前に把握した方がいいのでしょうか？

A 6 参加者の対象を明確にすることから始めましょう。

申込制だと、なかなか参加しにくくなります。食事の不足やロスのことを考えると申込を取る方がよいといえます。事前申込制のこども食堂の方が多いようです。

Q 7 参加の対象は？

A 7 年齢や家族状況などさまざまです。

小学生以上、ひとり親家庭、低所得者世帯のこども、こどもならだれでも。
高齢者など、大人でも誰でもなど、さまざまな形態があります。

Q 8 どうやったらこどもたちが来てくれるのでしょうか？

A 8 参加対象によって異なりますが、一般的には、学校を通じて、チラシなどを配布してもらったり、自治会の回覧板を利用するなどの方法があります。

また、広く自治会長や民生委員、保育園や放課後児童クラブなどに声をかけたり、周知に協力してもらうこともできます。

Q 9 いつ開催したらよいの？開催頻度は？

A 9 さまざまな形態があり、夏休みなどの長期休暇だけの開催、月1回の開催、毎週土曜日の開催や平日の夜の開催などがあります。

定期的な開催の方が、来る人が迷うことがないと言われています。

月1回、土曜日開催のところが多いようです。



Q10 参加費や料金はいくらにしたらよいのでしょうか？

A10 完全に無料にしているところが増えつつあります。

無料から 100 円～ 300 円くらいまでの料金設定が多いようです。

こども無料で、大人は 300 円という設定や、スタッフの協力金で、こどもの分は無料にしているところもあります。



Q11 運営費はどうしたらよいのでしょうか？

A11 地域の方やスタッフの寄付や協力金で運営したり、助成金を活用するなどの方法があります。

米や野菜などの食材の提供をしてもらったりする方法などもあります。

Q12 スタッフはどうやって集める？ どういう人たち？

A12 必要なスタッフは、会場のスペースやこどもの数などでさまざまです。

こども食堂を運営したいという有志だけでなく、ボランティアを募集して協力してもらっているところもあります。

こどもの年齢に近い学生に協力してもらったり、栄養士や調理の資格を持っている人に参加してもらっている場合もあります。

Q13 食事のメニューは？

A13 食事のメニューもそれぞれです。

寄付食品から運営者が決めたり、来ている子どもたちに希望を聞いたりして決めていることもあります。

最もよく提供されているメニューは、カレーです。調理の簡単さもありますが、子どもも大人も嫌いな人が少なく、栄養価が高いことも利点です。



Q14 アレルギーへの対応は？

A14 アレルギーの対応もそれぞれですが、対応していない場合は先に明確にしておいているところもあります。

受付時にアレルギーの有無を確認している場合もあります。

Q15 事故があった場合の保険はどうしているの？

A15 ボランティア行事用保険があります。

活動するボランティアだけでなく、こども食堂を利用する全員が対象となり、保険料も安価です。

申込は、市町村社会福祉協議会で、開催日の前日までに手続きが必要です。

Q16 食事以外のプログラムはどうしているの？

A16 学習支援を取り入れて開催している場合などがあります。



また、こどもと一緒に調理をするなどして食育の活動を行っているところもあります。地域の方々の協力を得ながら、昔ながらの遊びを行ったり、こどもが自由に遊べるスペースを確保するなど、形態はさまざまです。

Q17 保健所への届出は必要でしょうか？

A17 飲食店の営業許可があると不特定多数の人に食事を提供することができます。

詳細は、お近くの保健所にお問合せください。

衛生管理については、必須です。スタッフで情報を共有することが大事です。

Q18 ほかではどうしているの？こども食堂のネットワークはある？

A18 いろいろな規模で、こども食堂同士の情報交換を行ったり活動をしている団体があります。

青森県社会福祉協議会では「みんなの居場所」の登録制度を通じて、子どもの居場所の横のつながりや活動をしています。

みんなの「居場所」
&子どもの「居場所」

青森県社会福祉協議会「福祉ネットあおもり」

<http://aosyakyo.or.jp/>

のトップページから



全国の支援団体では、登録団体等に対して定期的に情報を発信したり、活動を支援しています。

- ・「全国こども食堂支援センターむすびえ」は、定期的な情報発信や情報交換会、研修会などを通じて、全国のこども食堂を支援しています。
- ・「こども食堂ネットワーク」は、こども食堂を広げるための連絡会です。
- ・「こども食堂サポートセンター」は、全国食支援活動協力会が運営し、広がれこども食堂の輪推進会議の開催やガイドブックの作成などで、活動を広げています。

●●●食中毒予防編●●●

★食中毒予防の3原則★

- 1 つけない
- 2 ふやさない
- 3 やっつける



★調理前★

食材や食器にさわる前はもちろん、生の肉・魚介類・卵にさわった後や、調理の途中でトイレに行ったり、ゴミ箱にさわったりした後は必ず手を洗う。



★調 理★

- ・調理前に、手などに付けているアクセサリー（時計、指輪、つけ爪など）は外す。
- ・手にケガをしている時は、調理しないようにする。（傷口にいる菌が食中毒を引き起こすこと！）
- ・必要に応じて、ビニール手袋を着用する。
- ・盛り付けは清潔な食器を使う。



★食 事★

- ・食事の前に、手を洗う。
- ・温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに食べる。
- ・長時間、室温で保管・放置しない。
- ・2時間以内に食べ終わるようにする。



★片付け★

- ・食器や調理器具はそのままにせず、できるだけ早く洗う。
- ・タオルやふきんは、清潔な乾燥したものを使う。
- ・調理器具などは熱湯または漂白剤などを使って消毒する。



●●●新型コロナウイルスを含む感染症対策編●●●

★飲食について★

マスクを外す飲食の場では感染リスクが高く、飲食店などではクラスターも報告されています。

気が付かぬうちに回し飲みや取り箸などの共用をしてしまうことも生じやすいですが、こうしたことも感染のリスクを高めることにつながります。

食べる時だけマスクを外し、会話する時はマスクを着用、体調が悪い人は参加しないといった基本を守ることも大事です。

また、感染状況は日々変わりますので、状況に応じて対応してください。

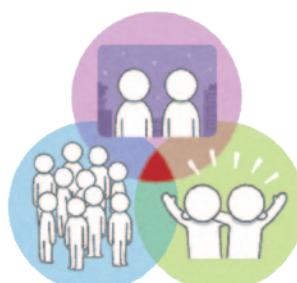
★食事をするにあたり★

- ・座席の間隔の確保（対面ではなく横並びにするなど）
- ・食事中以外のマスク着用の推奨（食べている時はしゃべらない）
- ・こまめな手洗い、手指消毒（食べる前と食べた後）
- ・咳エチケットの徹底（手で口をおさえない、何もせずにくしゃみをしない）
- ・こまめに換気（1時間に2回以上、数分程度）



★基本的な対策として★

- ・身体的距離の確保
- ・3密（密集、密接、密閉）の回避
- ・何よりも一人ひとりの健康チェック。発熱または風邪の症状がある場合は無理せず休む。



正しい手洗いの方法

1 流水で洗う



2 石けんを手に取る



3 手のひら、指の腹面を洗う



4 手の甲、指の背を洗う



5 指の間(側面)、股、付け根を洗う



6 親指と親指の付け根のふくらんだ部分を洗う



7 指先を洗う



8 手首を洗う（内側・側面・外側）



手洗いの画像 出典：看護 roo! (https://www.kango-roo.com/ki/image_1829/)

5 活動支援のための無料貸出品

下記機器等を無料でお貸ししています。

<借用方法>

- ・借りたい物品や日時を県社協へ電話やメールでご連絡ください。
- ・送料は双方負担です。
(県社協から送る際は送料不要ですが、返還いただく時はご負担ください)

<連絡先>

青森県社会福祉協議会 社会貢献活動推進室

TEL: 017-723-1391 E-mail : shiawase@aosyakyo.or.jp

(1) 非接触型体温計

①消毒液噴射型

②検温カメラ式

③手動式



(2) モバイル Wi-Fi



※パソコンやプロジェクターも無料貸出可能！

(3) サーキュレーター

- ・高さ 29cm 重さ 1.2kg
 - ・← 21cm × 21cm →
- ※電源必要



(4) CO₂濃度測定器

- ・1200ppm で換気必要！
 - ・アラーム機能あり
 - ・高さ 15cm くらい
- ※電源必要だが、充電可能



(5) 簡易テント



- サイズ / 約 2500 × 2500 × 2500 mm
- 5～6人用（目安）
- 高さ 3段階調節
1900・2200・2500 mm
- 収納時約 1170 × 190 × 190 mm
- 重量 / 約 12.5 kg
- 耐水圧 / 約 800 mm
- 材質 / フレーム：スチール・ナイロン・ABS樹脂・ポリプロピレン
天幕：ポリエステル
- セット内容 / フレーム×1・天幕×1
- 付属品 / ロープ×4・ペグ×8・収納ケース×1・取扱説明書

テントの重り

- ウエイトサイズ / 約 40 × 40 cm
- ウォータータンクサイズ /
約 260 × 230 × 290 mm (ジャバラ式)
- 重量 / 約 660 g
- 本体 / 面ファスナー固定式
- セット内容 / 本体×2
ウォータータンク 9L × 2



6 「みんなの居場所」づくりの支援

青森県社会福祉協議会では、身近な地域で食を通じて行われる「みんなの居場所」が各地域に広がるための支援をしています。

必要な情報を提供したり、交流や情報交換の場を設けるなどして、活動を支援しています。

【登録・問合先】

青森県社会福祉協議会 社会貢献活動推進室

TEL: 017-723-1391 E-mail : shiawase@aosyakyo.or.jp

「みんなの居場所」づくり支援のための登録要領

(趣旨及び目的)

- 第1条 この要領は、社会福祉法人青森県社会福祉協議会（以下「県社協」という。）が、青森県内で食を通じた居場所づくりを行っている「みんなの居場所」（以下「みんなの居場所」という。）の活動や運営を支援するために必要な事項を定めることを目的とする。
- 2 県社協は、「みんなの居場所」が、多様な個人や団体の参加と協働の下に安定した運営が行われるように支援するとともに、利用したい人が必要な時に「みんなの居場所」を利用できるように取り組むものである。

(県社協の取組内容)

- 第2条 県社協は、前条の趣旨に基づき、次の事項について取り組むものである。

(1) 「みんなの居場所」の活動に関する交流の場づくり

実際の活動の工夫や取組内容を共有することにより、それぞれの「みんなの居場所」の活動に活かすための交流の場づくりを行う。

(2) 「みんなの居場所」の活動を行う者に対する情報の提供及び収集

活動に役立つさまざまな情報を提供する。

(3) ホームページ等を活用した「みんなの居場所」の情報の発信

ホームページ等を活用し、実際活動している「みんなの居場所」を周知するとともに、こうした活動の認知度を高める活動を行う。

(4) その他、必要な活動

その他、前条の趣旨に基づき必要と考えられる活動を行う。

(「みんなの居場所」の登録)

- 第3条 県社協は、次に掲げる全ての要件を具備する「みんなの居場所」の活動主体に対し、前条の支援を行うものである。

(1) 実際に「みんなの居場所」の活動を青森県内で行っている個人・団体であること

(2) 営利を目的としていない活動であること

(3) 食を通じた活動があること

(4) 「みんなの居場所」が定期的に開催されていること

- 2 前項の全ての要件を具備し、前条の支援を受けようとする個人・団体は、様式1「みんなの居場所登録申請書」に必要事項を記載し、県社協に申請するものとする。
- 3 県社協は、第1項に規定する条件を具備していることを確認し、当該個人・団体を「みんなの居場所」として登録し、必要な支援及び公表を行うものとする。
- 4 前項で登録された「みんなの居場所」の活動主体は、内容に変更があった場合は、様式2「みんなの居場所登録内容変更届」に変更内容を記載し、県社協に届出するものとする。
- 5 第3項で登録された「みんなの居場所」の活動主体が、登録の取消や抹消を希望する場合は、書面でその旨を県社協に通知するものとする。
- 6 県社協は、第3項で登録された「みんなの居場所」の活動主体が、次に掲げる事項のいずれかに該当するときは、登録を取り消しすることができる。
 - (1) 様式1及び様式2の情報の連絡先に1年以上連絡がつかない場合
 - (2) 第3条第1項に規定する要件に該当しないことが確認された場合
 - (3) 不法行為や社会的な信用を失墜させる行為が確認された場合
 - (4) その他前各号に準ずる場合

(経費)

第4条 前条に規定する「みんなの居場所」の登録に係る経費は無料とする。但し、県社協が行う取り組みにおいて、経費の負担を求めることがある。

(その他)

第5条 この要領に定めるもののほか必要な事項は、県社協会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成31年4月8日から施行する。

様式1

「みんなの居場所」登録申請書

- 1 「みんなの居場所」づくり支援のための登録要領に基づき、下記のとおり申請します。
- 2 私たちの活動は、
 - (1) 実際に「みんなの居場所」の活動を青森県内で行っている個人・団体です。
 - (2) 営利を目的としていない活動です。
 - (3) 食を通じた活動です。
 - (4) 「みんなの居場所」が定期的に開催されています。
- 3 ホームページ等において、公表する内容の可否については、次のとおりです。

項目	内 容	公表の可否
①名称	※「〇〇食堂等」、みんなの居場所の名称を記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
②活動主体	※運営する団体等の名称がある場合に記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
③活動地域	市町村名（ ） 地区名（ ）	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
④開催場所	※複数ある場合は、複数個所を記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑤開催頻度	※月1回、第3金曜日など具体的に記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑥対象者	※参加の対象者を記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑦利用料金	※対象によって異なる場合は、個別に記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑧実際の参加者	※子どもが多い、高齢者が多いなどの内容や1回あたりの実参加人数を記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑨公表できる連絡先	※公表できるものだけを記載ください。 住所 〒 電話 FAX E-mail 担当者名 URL	公表します (公表不可の場合は記載不要)
⑩連絡先	※上記と同様の場合は記載不要 住所 〒 電話 FAX E-mail 担当者名	

年 月 日

活動主体（代表者等氏名）

様式2

「みんなの居場所」登録内容変更届

1 登録された内容に変更があったので、下記のとおり届出します。

※変更箇所のみ記入

項目	内 容	公表の可否
①名称	※「○○食堂等」、みんなの居場所の名称を記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
②活動主体	※運営する団体等の名称がある場合に記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
③活動地域	市町村名（ 地 区 名（ ） ）	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
④開催場所	※複数ある場合は、複数個所を記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑤開催頻度	※月1回、第3金曜日など具体的に記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑥対象者	※参加の対象者を記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑦利用料金	※対象によって異なる場合は、個別に記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑧実際の参加者	※子どもが多い、高齢者が多いなどの内容や1回あたりの実参加人数を記載ください。	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
⑨公表できる連絡先	※公表できるものだけを記載ください。 住所 <input type="text"/> 電話 <input type="text"/> FAX E-mail <input type="text"/> 担当者名 <input type="text"/> URL <input type="text"/>	公表します (公表不可の場合は記載不要)
⑩連絡先	※上記と同様の場合は記載不要 住所 <input type="text"/> 電話 <input type="text"/> FAX E-mail <input type="text"/> 担当者名 <input type="text"/>	

7 県内の子どもの居場所に関する関係団体等一覧

●市町村子どもの貧困対策担当課

市町村名	担当課名	電話番号
青森市	子育て支援課	017-734-5320
弘前市	こども家庭課	0172-40-7039
八戸市	子育て支援課	0178-43-9581
黒石市	福祉総務課	0172-52-2111 (内線 518)
五所川原市	子育て支援課	0173-35-2111 (内線 2488)
十和田市	こども支援課	0176-51-6716
三沢市	子育て支援課	0176-51-4431
むつ市	子育て支援課	0175-22-1111
つがる市	福祉課	0173-42-2175
平川市	子育て健康課	0172-44-1111
平内町	福祉介護課	017-755-2114
今別町	町民福祉課	0174-35-3004
蓬田村	健康福祉課	0174-27-2113
外ヶ浜町	福祉課	0174-22-2941
鰺ヶ沢町	ほけん福祉課	0173-72-2111 (内線 154)
深浦町	福祉課	0173-74-2117
西目屋村	住民課	0172-85-2803
藤崎町	住民課	0172-88-8184
大鰐町	保健福祉課	0172-55-6568
田舎館村	厚生課	0172-58-2111

市町村名	担当課名	電話番号
板柳町	介護福祉課	0172-73-2111
鶴田町	町民生活課	0173-22-2111 (内線 161)
中泊町	福祉課	0173-57-2111
野辺地町	健康づくり課	0175-64-1770
七戸町	社会生活課	0176-68-2114
六戸町	福祉課	0176-55-3111
横浜町	福祉課	0175-78-2111
東北町	福祉課	0176-56-3111
六ヶ所村	子ども支援課	0175-72-8035
おいらせ町	保健こども課	0178-56-4259
大間町	住民福祉課	0175-37-2520
東通村	健康福祉課	0175-28-5800
風間浦村	村民生活課	0175-35-3111
佐井村	福祉健康課	0175-38-2111
三戸町	住民福祉課	0179-20-1151
五戸町	福祉課	0178-62-2111 (内線 131)
田子町	住民課	0179-23-0678
南部町	健康こども課	0178-60-7100
階上町	すこやか健康課	0178-38-1237
新郷村	住民課	0178-78-2111

●県内福祉事務所

所属名	電話番号
青森市福祉事務所	017-734-5334
弘前市福祉事務所	0172-40-7039
八戸市福祉事務所	0178-38-0703
黒石市福祉事務所	0172-52-2111 (内線 516)
五所川原市福祉事務所	0173-35-2111 (内線 2487)
十和田市福祉事務所	0176-51-6716
三沢市福祉事務所	0176-51-8770
むつ市福祉事務所	0175-22-1111

所属名	電話番号
つがる市福祉事務所	0173-42-2175
平川市福祉事務所	0172-44-1111
東地方福祉事務所	017-734-9950
中南地方福祉事務所	0172-35-1622
三戸地方福祉事務所	0178-27-4435
西北地方福祉事務所	0173-35-2156
上北地方福祉事務所	0176-62-2145
下北地方福祉事務所	0175-22-2296

●県内関係機関

所属名	電話番号	所属名	電話番号
青森県社会福祉協議会	017-723-1391	青森県母子寡婦福祉連合会	017-735-4152

●子どもの居場所づくりコーディネーター

「子どもの居場所」を開設したい希望者と、地域のさまざまな社会資源とを結びつけるコーディネーターが県内で活躍しています。子どもの居場所づくりを始めたいと考えている方は、ご相談ください。

(令和2年2月現在)

No	お名前	活動地域	所 属	〒	住 所	電話番号
1	大塚恵子	造道・原別・東部地区	・みんなの食堂 アエール	030-0913	青森市東造道1-5-15	090-4045-0882
2	加藤和子	東青地域(青森市内)	・みんなの食堂 アエール	030-0917	青森市矢作3丁目9-12	090-4043-0749
3	柿崎 章	青森市内	・みんなの食堂 アエール	030-0921	青森市原別4丁目7-30	017-736-7925
4	野呂敏子		・みんなの食堂			
5	後藤友美	青森市内 (主に青森市内が中心だが、できる限り相談に応じて活動したいです。)				090-5839-4671
6	葛西聖子	青森市				
7	秋元美幸	青森市浪岡地区	・指定障害者支援施設 りんどう苑	038-1342	青森市浪岡大字樽沢字上野74-1	0172-62-1800
8	下館敏幸	八戸市、三戸郡	・TEAMあべじや～ズ ・はづのへハロワイン実行委員会	031-0023	八戸市是川3丁目15-3	0178-96-2597
9	中村伸吾	青森市沖館地区	・沖館小学校教育振興会 ・幸伸保育園	038-0004	青森市富田5丁目14-22	090-7561-3993
10	高田由美	市内全域	・社会福祉法人和幸園 和幸保育園	030-0861	青森市長島2丁目1-12	017-776-4826
11	三上壽美子	平内町	・社会福祉法人三康福祉会 青空保育園	039-3332	東津軽郡平内町清水川和山71-2 (青空保育園)	017-756-2109
12	阿保香月	大鰐町、碇ヶ関	・大鰐町赤ちゃん子育てサークル わにっこクラブ ・大鰐町あすなろ母親クラブ ・青森県教育支援プラットフォーム 中南地区実行委員会	038-0243	南津軽郡大鰐町八幡館長内19-1	0172-47-5273 090-2985-7458
13	奈良清芽	弘前市	・文京地区民生委員児童委員	036-8153	弘前市三岳町	090-9630-7337
14	工藤知久子	青森市中央地区	・青森市浦町中学校区 コミュニティスクール ・地域応援チームうらまち ・青森市中央地区民児協	030-0823	青森市橋本3丁目18-3	090-2020-7550
15	井澤淳	弘前市周辺	・社会福祉法人千年会 障害者支援施設千年園	036-8144	弘前市原ヶ平山中39-1	0172-87-4888
16	三浦幸子	幸畑・筒井・大野	・特別養護老人ホーム正寿園	030-0124	青森市田茂木野阿倍野63-2	017-738-3711
17	中田太		・特別養護老人ホーム正寿園	030-0124	青森市大字田茂木野字阿部野63番地の2	017-738-3711
18	小澤幸恵	基本的に 青森市内 (他の地域は応相談)	・発達凸凹共育会「はぐとも」			090-5832-5751

No.	お名前	活動地域	所 属	〒	住 所	電話番号
19	佐藤まさ	弘前市	・子ども食堂 すこやかプロジェクト		弘前市	090-3364-9491 0172-33-9160
20	本江るみ子	むつ市、下北郡		039-4401	むつ市大畠町	090-9633-3340
21	太田功一		・まきばのこども園			
22	藤林 秀	西北五	・family café あづま～る ・憩いの広場ここまる			
23	森 岩樹	弘前市を中心に 中弘南黒、西北地区、 青森市浪岡など 青森県西側	・特定非営利活動法人青森県 就職支援チーム ・ユースひろさき (フリースクール、通信制高校サポート校) ・特定非営利活動法人パノラマ (神奈川県高校生カフェ実践で知られる)	036-8247	弘前市大開 3-2-15	0172-87-8476
24	川名裕美	青森県全部	・NPO 法人子育てオーダー ^{メイド} ・サポートこもも	030-0936	青森市矢田前字浅 井 26-28	080-5227-1887
25	橋本 歩	青森県内	・NPO 法人子育てオーダー ^{メイド} ・サポートこもも	030-0821	青森市勝田 2 丁目 7-3	090-2997-8051
26	津島裕子	青森市、弘前市 他県内	・NPO 法人子育てオーダー ^{メイド} ・サポートこもも	030-0821	青森市勝田 2 丁目 7-3	080-3145-5196
27	山脇麻衣子	青森市	・NPO 法人子育てオーダー ^{メイド} ・サポートこもも ・新日本婦人の会青森支部			090-9313-4013
28	野呂深雪	弘前市内 (近隣市町村)	・一般社団法人プラシア	036-8087	弘前市早稲田 3 丁 目 5-5	0172-55-8863
29	服部 圭	三八上北 (十和田市)	・NPO 法人おいらせサポート ハウス K の家	034-0303	十和田市法量字焼 山 64-227	0176-74-1332
30	武内留美子	青森市西部地区 (主に沖館、富田、 篠田地区)	・青森市沖館民児協 ・青森市沖館小学校 ・青森市富田町会	038-0004	青森市富田 1 丁目 22-27	017-766-2930
31	柏崎美江	三沢市内、 近隣市町村	・三沢市民生委員児童委員協議会 ・三沢地区更生保護女性会 ・日の出町内会	033-0154	三沢市日の出 2 丁 目 94-738	0176-53-5485 090-2971-8672
32	富田玲子	青森県内	・三沢市民生委員児童委員協議会 ・三沢地区更生保護女性会 ・おいらせ農協女性部三沢支部	033-0133	三沢市鹿中 1 丁目 145-711	0176-54-3012
33	神田千寿子	三沢市内	・三沢市役所生活福祉課	033-0011	三沢市幸町 1 丁目	0176-53-1326
34	石川由佳	青森市近郊	・青森市民生委員・児童委員			090-7067-3981
35	工藤真理子	大野・浪館・金沢・ 安田	・このゆびとまれ	030-0852	青森市 大野鳴滝 64-35	090-8924-1608 017-739-5178
36	白山拓弥	八戸市	・特定非営利活動法人あおばの会 (八戸あおば高等学院)	031-0081	八戸市柏崎 2 丁目 7-14	0178-22-3470
37	対馬明帆	青森市内及び 東青地区	・青森市民生委員児童委員協議会 ・油川地区民生委員児童委員協議会 ・油川地区社会福祉協議会	038-0058	青森市羽白字沢田 294-2	017-788-6221

No.	お名前	活動地域	所 属	〒	住 所	電話番号
38	古川聖子	青森県内	・学習塾のせっこ会	030-0822	青森市中央 2 丁目 2-20	017-763-5568
39	甲地 操	青森市内、東津軽郡			青森市東部地区	090-9536-2497
40	鈴木杏子	青森市	・フェリーチェあおもり ・桜川みんなの食堂	030-0945	青森市桜川 2 丁目 4-11	090-4639-4148
41	葛西淳子	青森市松原		030-0961	青森市浪打 2 丁目 14-1	090-4635-1714
42	松家みはる	青森市内	・あおもり子ども劇場	030-0904	青森市茶屋町 25-16-201	
43	小嶋眞喜子	沖館地区	・小学校放課後子ども教室 ・沖館民児協	038-0002	青森市沖館 5-20-21	017-766-3654 090-4315-4247
44	工藤奈々子	つがる市	・館岡保育園	038-3283	つがる市木造館岡上稻元 21	0173-45-3520
45	千代谷成子	青森市内	・公益財団法人 青森県母子寡婦福祉連合会	030-0822	青森市中央 3 丁目 20-30 県民福祉プラザ 3F	017-735-4152
46	中野渡瞳	十和田市	・ひかり保育園	034-0037	十和田市穂並町 4-60	0176-23-3446
47	秋田谷洋子	青森市	・公益財団法人 青森県母子寡婦福祉連合会	030-0822		090-5238-5989
48	久保 慎	八戸市周辺	・NPO 法人ワーカーズコープ ・ちょうじやこども食堂	031-0042	八戸市十三日町 4-1 ユートピアビル1F	0178-51-8582

(青森県子どもの居場所づくりコーディネーター養成講座受講者番号順)

令和4年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

保険金の種類	プラン	基本プラン	天災・地震補償 プラン	[新設]特定感染症 重点プラン
ケガの 補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外 ^(*)	初日から補償
賠償責任 の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円	550円

*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行家用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL:03(3349)5137

受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一緒に締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667

受付時間：平日の9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

あおもり子どもの居場所づくり活動事例集

発行者：青森県健康福祉部こどもみらい課

青森市長島1丁目1-1

〔 作成者：社会福祉法人青森県社会福祉協議会
青森市中央3丁目20-30 〕